

中央環境審議会自然環境部会 自然公園等小委員会（第37回）

国立公園事業の決定・廃止・変更案件 に関する説明資料

（当日説明なし）

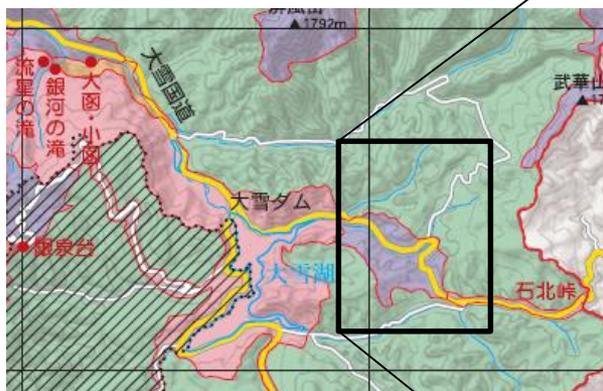
大雪山国立公園 大雪台園地

廃止

規模：決定なし

第1種特別地域（国有林）

●位置図



●公園計画図



○旧国道39号線沿いに位置する。国道39号線は平成14年に線形改良が行われ現在は層雲峡ルベシベ線道路（車道）として執行されているが、旧国道39号線は廃道して原状復旧されており大雪台園地に国立公園利用者がアクセスすることはできない。

廃止理由

- 大雪台園地は、かつて、国道39号線の利用者が休憩し、大雪山の山並みを展望する園地として利用されていたが、平成14年に線形改良が行われて以降、利用者はアクセスすることができず、施設の撤去もなされ、植生も自然に回復してササに覆われている。
- 層雲峡ルベシベ線道路（車道）事業（国道39号線）の大部分で線形改良が行われた現状では、当該園地を再整備する必要性に乏しい。
- このため、本事業を維持する公園保護上、利用上の必要性はなく、廃止するものである。



原状復旧された旧国道39号線と大雪台園地入口

自然環境への影響

- 昭和34年に整備された木柵、標柱、ベンチ等の施設は撤去されて見受けられない。斜面の土留めのための石積みが一部残存しているが、撤去することで斜面の流出、崩落も想定されること、林床にはササ等の植生が生育して地表面が保護されていることから、現状のままとする。



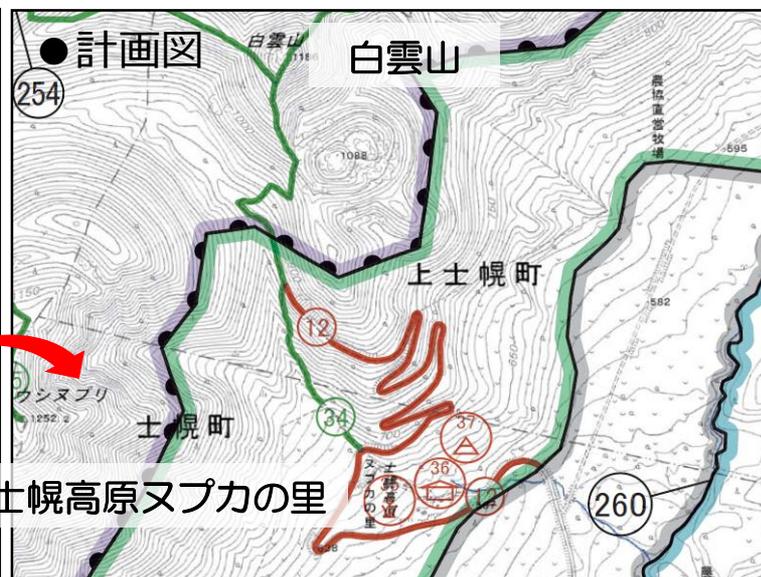
ササの中にかつての石積みが見受けられる

大雪山国立公園 士幌然別線道路（車道）

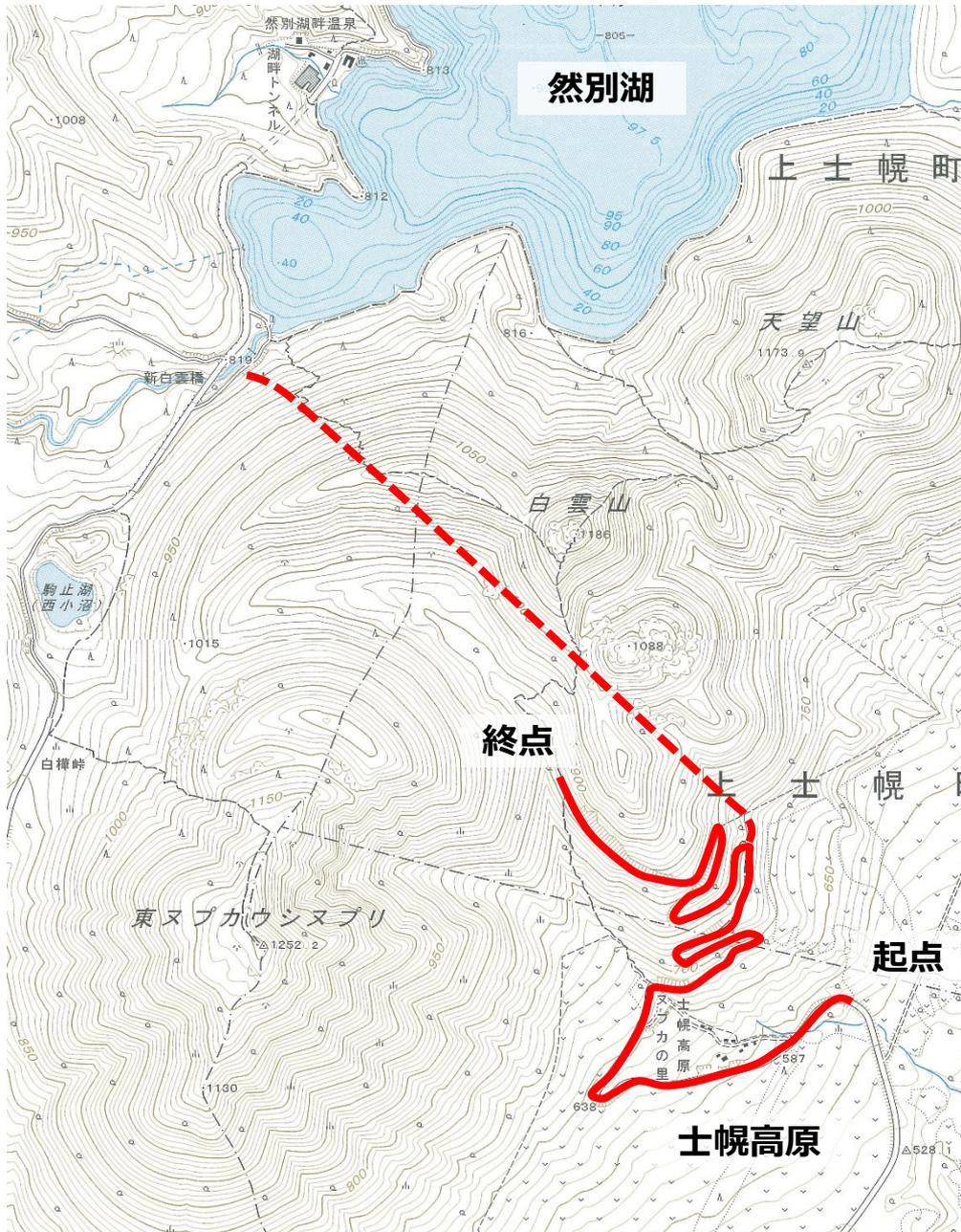
変更

路線距離：規模決定なし→4.8km
 執行者：北海道

第3種特別地域（国有林、町有地）



- 然別湖外輪山の一つである白雲山の南麓斜面にあり、士幌高原又プカの里（士幌高原園地）へ至る路線である。
- 十勝平野の眺望を楽しむため士幌高原園地を訪れる利用者のアクセス道路として利用されている。



- 削除する未開削区間
- 維持する現行路線

【事業規模】

路線距離：規模決定なし→4.8km

- 士幌高原と然別湖畔を結ぶ道路として北海道により整備が計画され、昭和40年代には一部区間が開削されたが、地元団体による反対運動等により、新規開削工事は一時中断された。
- 平成11年には北海道の「時のアセスメント」により新規開削工事の取りやめが決定され、その後本道路計画に関する動きはないことから未開削区間分の路線距離を削除する。
- 変更後の事業規模については、すでに道路開削済みの区間の距離とし、4.8kmとする。

未開削区間の削除

- 既開削区間について、北海道が引き続き維持管理を行う。
- 現在供用されていない白雲山登山口以降の区間については原状復旧が望ましいが、予算等の事情から即座に対応することは難しいため、当面は公園事業道路として継続し、原状復旧については北海道と調整を図っていく。

- 供用区間：約1.6km
- 非供用区間（舗装）：約1.0km
- 非供用区間（未舗装）：約2.2km



自然環境への影響

現状の維持であり改変はないことから、新たな自然環境への影響はない。

大雪山国立公園 トムラウシ山線道路（歩道）

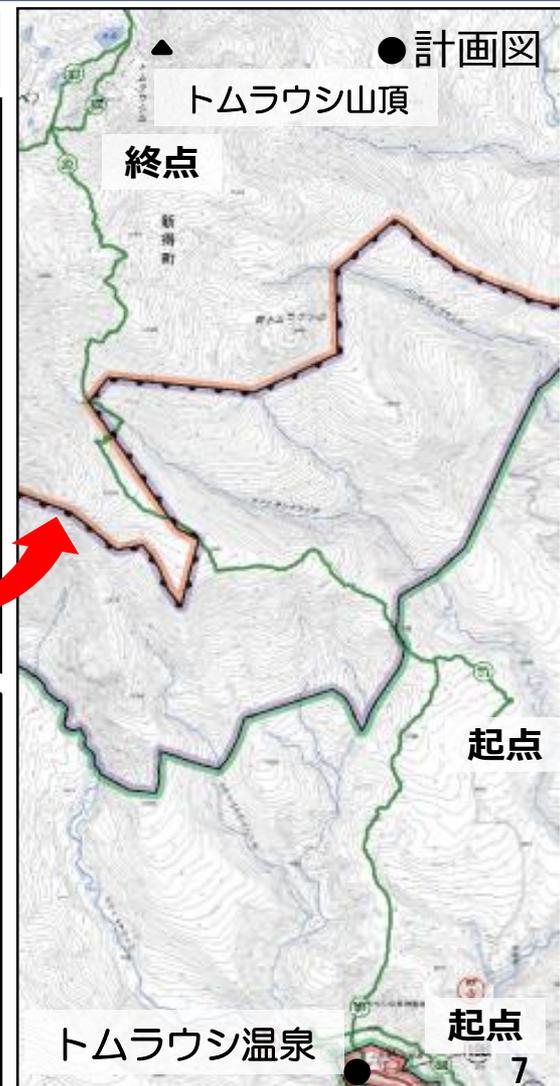
変更

路線距離：12km→13km

執行者（予定）：環境省・北海道

特別保護地区、第1・2・3種特別地域（国有林）

山頂と登山道



- トムラウシ山南麓から山頂へ向かう歩道で、2つの登山口を有する。
- 標高1,450m以降の高山帯ではチングルマ等高山植物の広大なお花畑が広がる。
- トムラウシ山登山のメインルートとして利用されており、両登山口合わせて年間3,200人程の入山がある。

トムラウシ温泉

起点



【事業規模】 路線距離：12km→13km



- 従来からトムラウシ山の主たる登山コースとして利用されてきた短縮コース（1 km）及び同コース登山口に位置する既存の標識と公衆トイレを公園事業に位置づけるもの。
- 平成29年度の入山者数は、
短縮コース：約3,100人
温泉コース：約100人であり、
9割以上が短縮コースを利用している。

自然環境への影響

土地の改変等、新たな自然環境の改変が行われるものではない。

支笏洞爺国立公園 壮瞥温泉宿舎

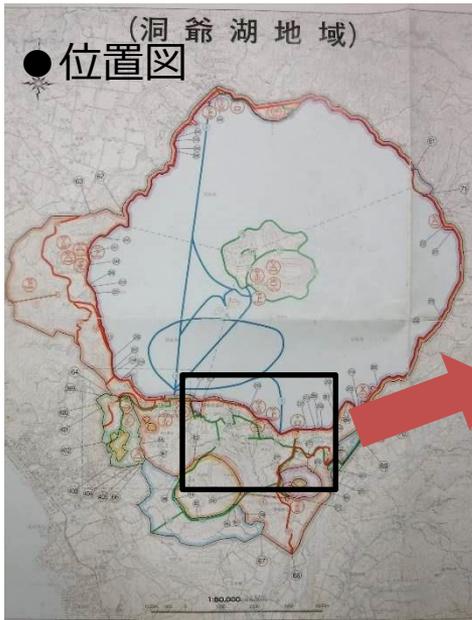
変更

区域面積：4.0ha→4.9ha

最大宿泊者数：540人/日（変更なし）

執行者（予定）：民間

第2種特別地域（民有地）



●計画図



壮瞥温泉宿舎から眺める洞爺湖の風景



○洞爺湖の南に位置している。田園地帯の中の小規模な施設が静かな雰囲気を保っていることから、洞爺湖の優れた景観が維持されている。

○温泉を利用した宿泊、保養等利用のほか、周辺の火山景観資源を活用した自然体験や洞爺湖の水辺利用の拠点となっている。

壮瞥温泉宿舎決定区域



区域面積：4.0ha→4.9ha

最大宿泊者数：540人/日（変更なし）



今回追加区域から昭和山を望む

これまで企業の保養所であった施設を一般向けの宿舎として改修及び増築を行う計画があるため、既存施設及び増築予定の区域を拡張するもの。
近年の訪日旅行者等の増加によって、この地域を訪れる利用者は増加傾向にあり、老朽化した施設の改築や需要に対応するための増築の必要性は認められる。

宿舎の増築

執行者（予定）：民間

- 既存の宿舎を改修するとともに、隣接地に増築を行う。



自然環境への影響

宿舎の増築は、既存宿舎に隣接した現在民家のある敷地に整備されるもので、新たな土地の改変や樹木の伐採は生じない。

三陸復興国立公園 大島（オランダ島）係留施設

決定

区域面積：180㎡

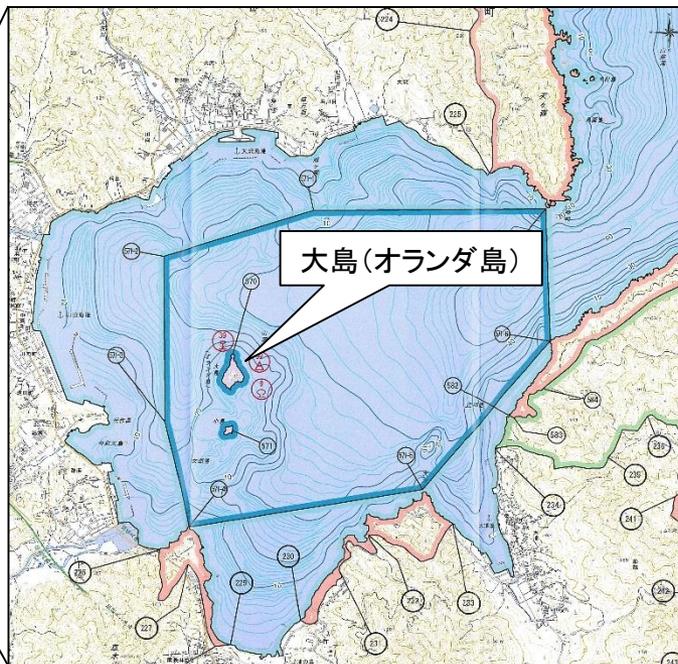
執行者（予定）：山田町

海域公園地区、第1種特別地域（町有地）

●位置図



●公園計画図



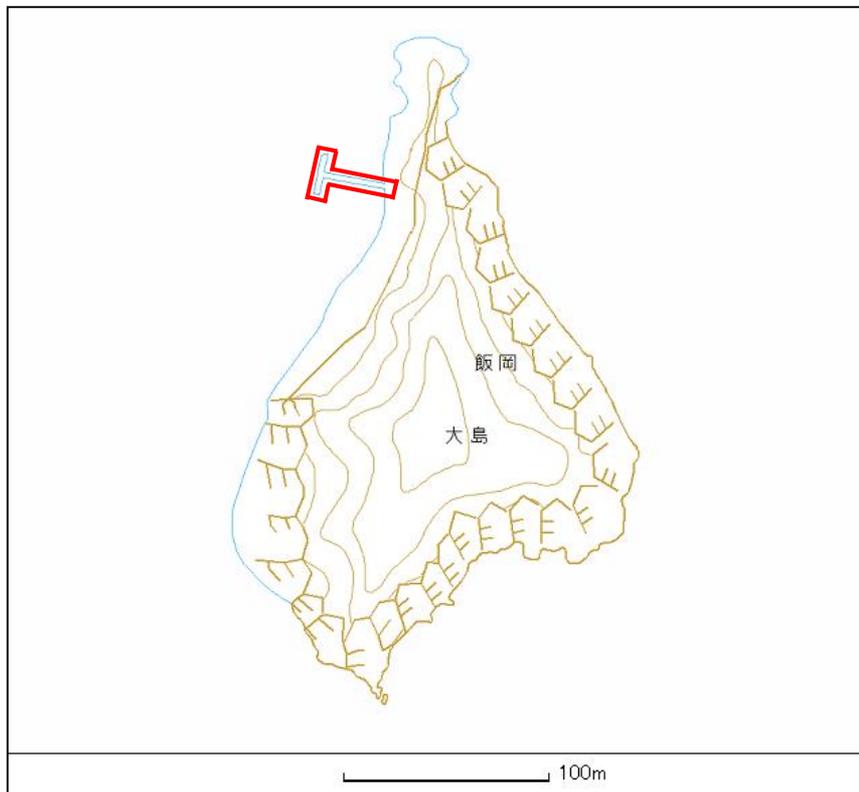
大島（オランダ島）



海水浴場（震災前）

大島（オランダ島）は、陸中北部地域の山田湾に位置する無人島で、美しい内湾景観を保護するため、平成30年度に海域公園地区の設定と同時に格上げ（2特→1特）を実施した。波が静かな湾内は漁業資源にも恵まれ水産業が盛んであるとともに、震災前まではオランダ島を拠点とした海水浴やシーカヤック等の利用が行われていた。

大島（オランダ島）係留施設 決定区域図



事業規模

区域面積：180m²



大島（オランダ島）にある唯一の船着き場で、海水浴等のオランダ島の利用者に乗せた船が発着する。東日本大震災による津波で破損しており、今後、山田町において復旧・再整備を行う予定。既存施設の規模（120m²）を基本とするが、設計の詳細が未定であるため、余裕を見て180m²としている。

既存施設の把握（係留施設）

執行者：山田町

- 大島（オランダ島）を利用する上で必要かつ適正な規模の施設であり、位置も海水浴場として利用される砂浜の端部にあり、利便性及び景観面を踏まえ適当である。
- 今後、山田町においては係留施設のほか避難路、遊歩道等を、環境省は公衆トイレの復旧・整備を行い、園地の適正な利用を推進していく予定。

自然環境への影響

整備位置は海水浴場として利用される砂浜の端部にあたり、景観への影響は少ない。施工に当たっては、手摺りに擬木を使用すること及び汚濁防止対策としてシルトフェンス（汚濁防止膜）を設置することを想定。



磐梯朝日国立公園
横向温泉索道運送施設

決定

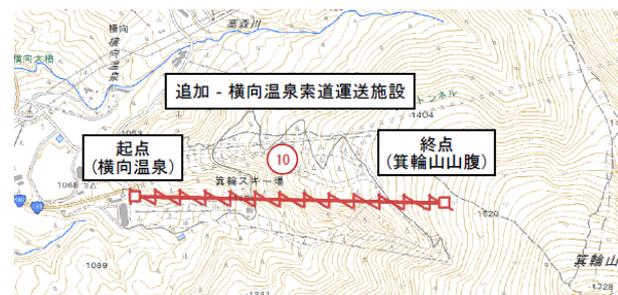
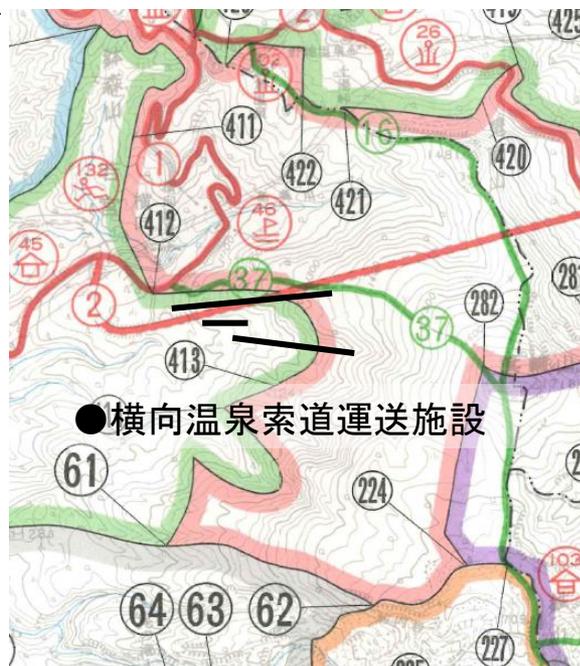
路線距離 : ①1.5km②0.6km③1.1km
最大輸送量 : ① ②2,400人③1,200人/時
執行予定者 : 民間

第2種特別地域及び第3種特別地域 (国有林)

●位置図



●公園計画図

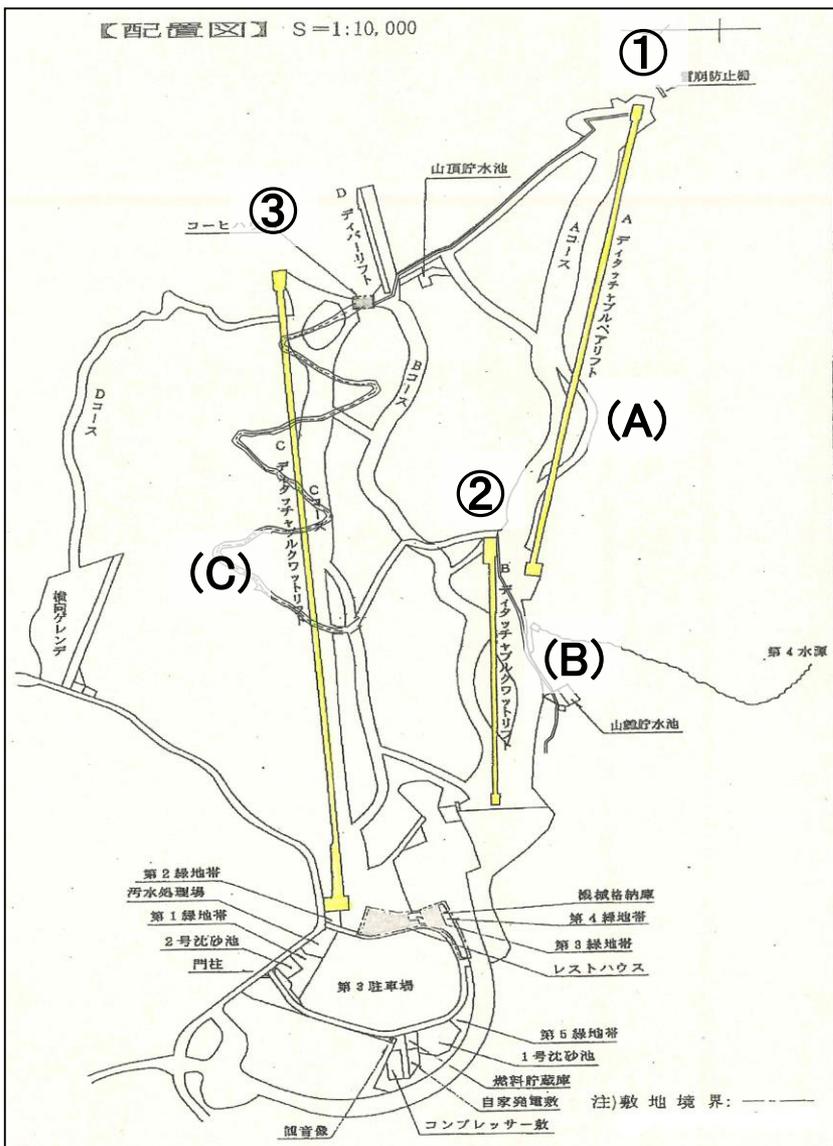


※H30秋審で計画決定



- 安達太良連峰の箕輪山の西斜面に整備された横向温泉スキー場内。周辺はカラマツ人工林やブナ等の広葉樹林。
- 主な利用は箕輪山登山、横向温泉スキー場でのスキー、横向温泉での入浴等。

<決定区域図>



- 横向温泉スキー場の既存リフト3本を索道運送施設として位置付けて夏季に運行させるもの。決定規模は下記のとおり。

- ①リフト (A) : 路線距離 1.5km
最大輸送量 2,400人/時
- ②リフト (B) : 路線距離 0.6km
最大輸送量 2,400人/時
- ③リフト (C) : 路線距離 1.1km
最大輸送量 1,200人/時

- 新たな施設整備は計画されておらず、既存施設を把握するもの。

既存施設の把握（リフト）

執行者：民間

- 横向温泉スキー場として執行している既存リフト3本を索道運送施設として位置付けて夏季に運行させ、①～③を実施する。
 - ①リフト終点からの磐梯山や吾妻連峰の眺望観光
 - ②スキー場管理道路を使ったブナ林散策
 - ③星空観察



リフト(B) 起点



磐梯山や吾妻連峰の眺め



リフト(C) 終点



リフト(C)

自然環境への影響

- 現在は利用者が少ない夏期に横向温泉スキー場及び箕輪山登山道の利用が増えると予想されるが、新たな施設整備は行わずに既存リフトを活用するものであることから、自然環境への影響は小さい。



箕輪山頂から眺めた安達太良連峰

箕輪山登山道について

- リフト（C）終点の近くに箕輪山の登山道が通っているが、洗掘が進んでおり、公園事業として執行されておらず十分に管理されていない。
- 観光客や大人数での登山利用に適した状態ではないことから、看板等によりリスクを事前に周知しリフト利用者に対する箕輪山登山道への誘導は行わない。



洗掘された登山道



登山道を塞ぐ倒木

磐梯朝日国立公園 奥岳公衆浴場

決定

区域面積：0.3ha

執行予定者：民間

第3種特別地域（国有林）

●位置図



●公園計画図



※H30秋審で計画決定



- 安達太良山の東斜面に整備された奥岳スキー場に隣接。
- 周辺はカラマツ人工林やミズナラ等の広葉樹林。
- 主な利用は安達太良山登山、奥岳スキー場でのスキー、奥岳の湯での入浴等。

既存施設の把握（温浴棟、駐車場）

執行者：民間

- 奥岳スキー場索道運送施設の附帯休憩所として日帰り温泉施設が執行されており、温浴棟、駐車場等の施設が整備されている。
- 新たに施設を整備する予定はなく、自然環境への影響は特にない。



温浴棟



駐車場

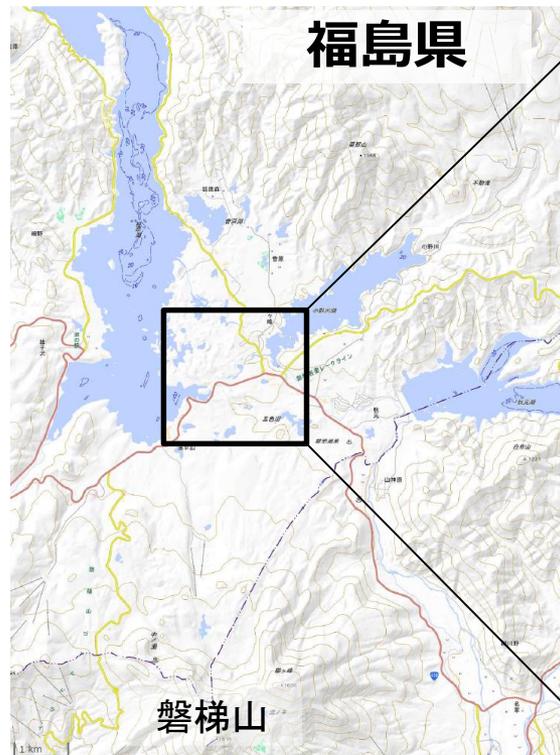
磐梯朝日国立公園 中瀬沼弁天沼線道路（歩道）

廃止

路線距離：2.5km

第1種特別地域（公有地）

●位置図



●公園計画図



○磐梯山の北側の裏磐梯に位置し、付近には東北自然歩道線道路（歩道）、桧原湖南東岸野営場等の公園利用施設が整備されている。

○裏磐梯の主な利用は、磐梯山登山、五色沼の自然探勝、桧原湖上の遊覧等。

廃止理由

- 当該歩道は既存歩道を整備する想定だったが、かつて道があった場所は植物が生い茂って自然に戻りつつあり、中瀬沼弁天沼線道路（歩道）は公園利用上必要なくなったため。



自然環境への影響

- 中瀬沼弁天沼線道路（歩道）は事業執行されておらず、かつて道があった場所は植物が生い茂って自然に戻りつつあり、中瀬沼弁天沼線道路（歩道）を廃止することによる環境への影響はない。

磐梯朝日国立公園 土湯沢温泉宿舎

廃止

区域面積：0.4ha

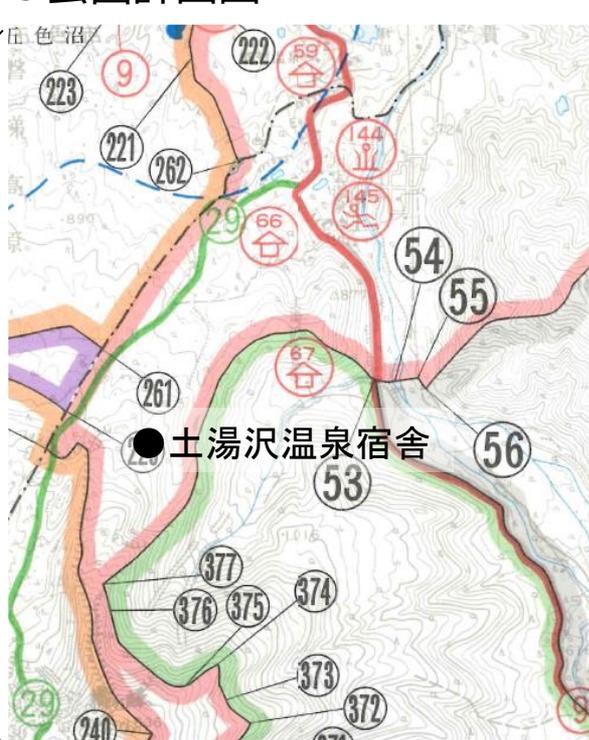
最大宿泊者数：200人/日

第3種特別地域（公有地）

●位置図



●公園計画図



- 磐梯山の北東側に位置し、米沢猪苗代線道路（車道）から林道を約500m入った場所。
- 土湯沢宿舎は廃業し、跡地で地熱開発の試掘が行われた場所であり、一般の公園利用者は立ち入らない。

廃止理由

- 土湯沢宿舎は昭和37年の公園計画の変更の際に計画に追加され、民間により事業執行されたが昭和39年頃に消失し、平成8年に事業失効した。
- 一般の利用者が立ち入らない場所で施設がなくなっただけから長期間経過しており、新たに事業執行される見込みがないことから、今回公園計画から削除されるのに伴い、廃止するもの。



自然環境への影響

- 土湯沢宿舎は平成8年に失効して建築物は残っておらず、土湯沢温泉宿舎を廃止することによる環境への影響はない。



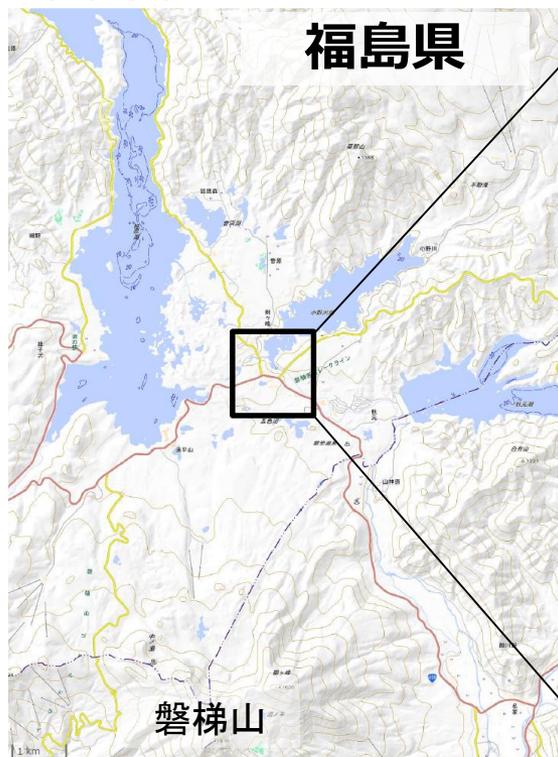
磐梯朝日国立公園 吐出駐車場

廃止

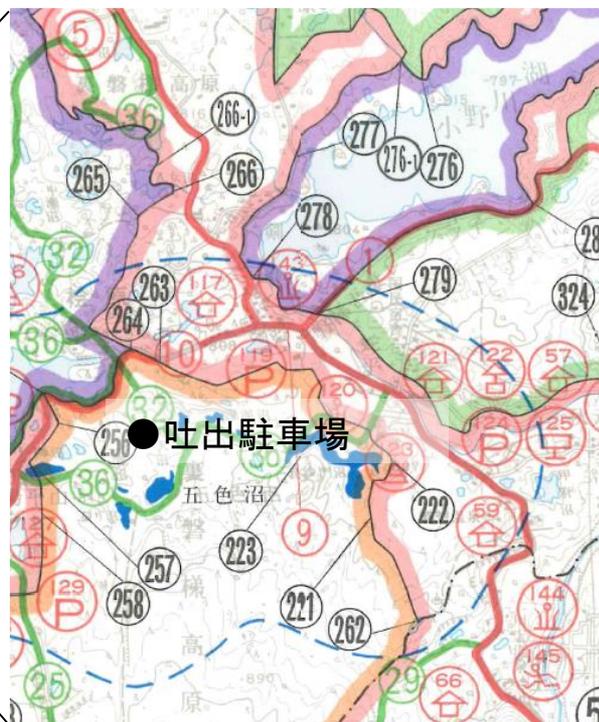
区域面積：0.2ha

第2種特別地域（公有地）

●位置図



●公園計画図



○磐梯山の北側の裏磐梯に位置し、付近には民間や公共の施設が多く、公園利用施設は米沢猪苗代線道路（車道）のみ。

○裏磐梯の主な利用は、磐梯山登山、五色沼の自然探勝、桧原湖上の遊覧等。

廃止理由

- 計画地付近には米沢猪苗代線道路（車道）以外の公園利用施設はなく、周辺の民間施設や公共施設は各施設の駐車場で足りており、吐出駐車場は公園利用上必要なくなったため。



吐出駐車場計画地周辺

自然環境への影響

- 吐出駐車場は事業執行されておらず、吐出駐車場を廃止することによる環境への影響はない。



吐出駐車場計画地周辺

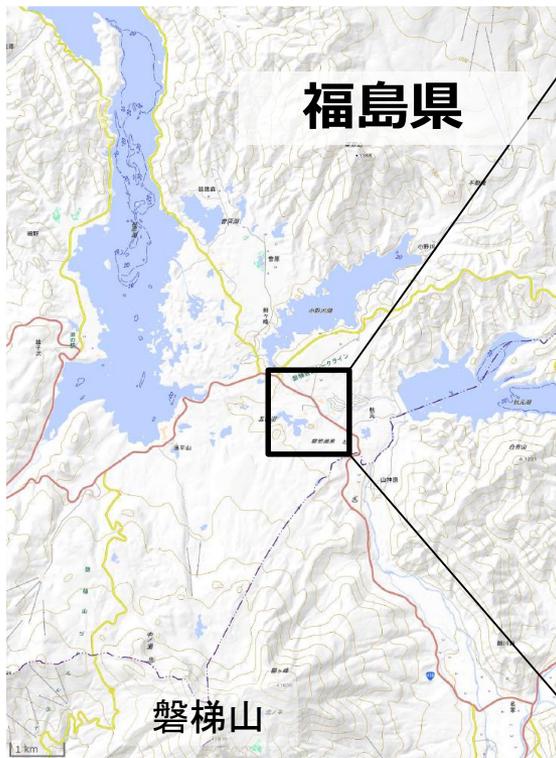
磐梯朝日国立公園 五色沼東休憩所

廃止

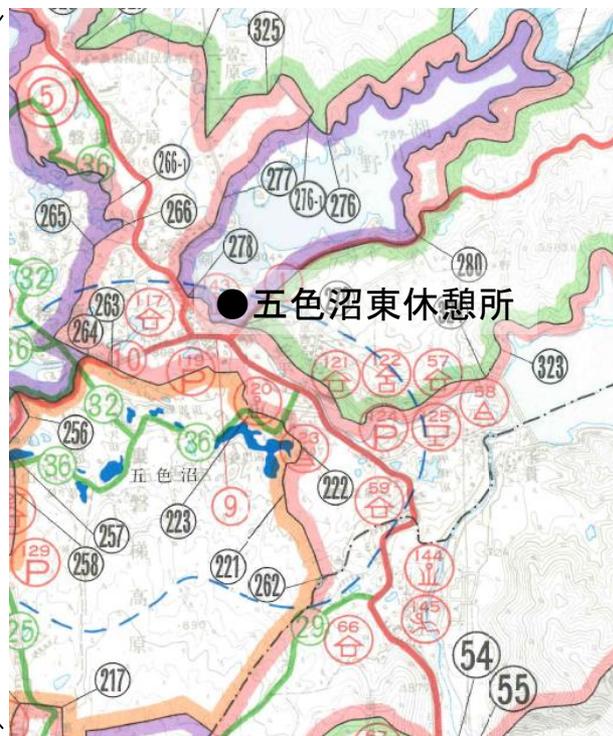
区域面積：10ha

第2種特別地域（国有地（環境省所管地））

●位置図



●公園計画図



○磐梯山の北側の裏磐梯高原に位置し、付近には五色沼東博物展示施設、五色沼東園地等の公園利用施設がある。

○裏磐梯の主な利用は磐梯山登山、五色沼の自然探勝、桧原湖上の遊覧等。

廃止理由

- 平成18年に公園事業が廃止され、跡地は環境省所管地となり現在は五色沼東園地として整備されている。
- 周辺には公園利用者が飲食できる民間施設が複数あり、五色沼東園地に四阿やベンチが整備されており、五色沼東休憩所は公園利用上必要なくなったため。



五色沼東園地

自然環境への影響

- 五色沼東休憩所の跡地は環境省所管の国有地となっており、環境省が五色沼東園地を執行しているため、五色沼東休憩所を廃止することによる環境への影響はない。



五色沼東園地の園路

富士箱根伊豆国立公園 俵石宿舎

変更

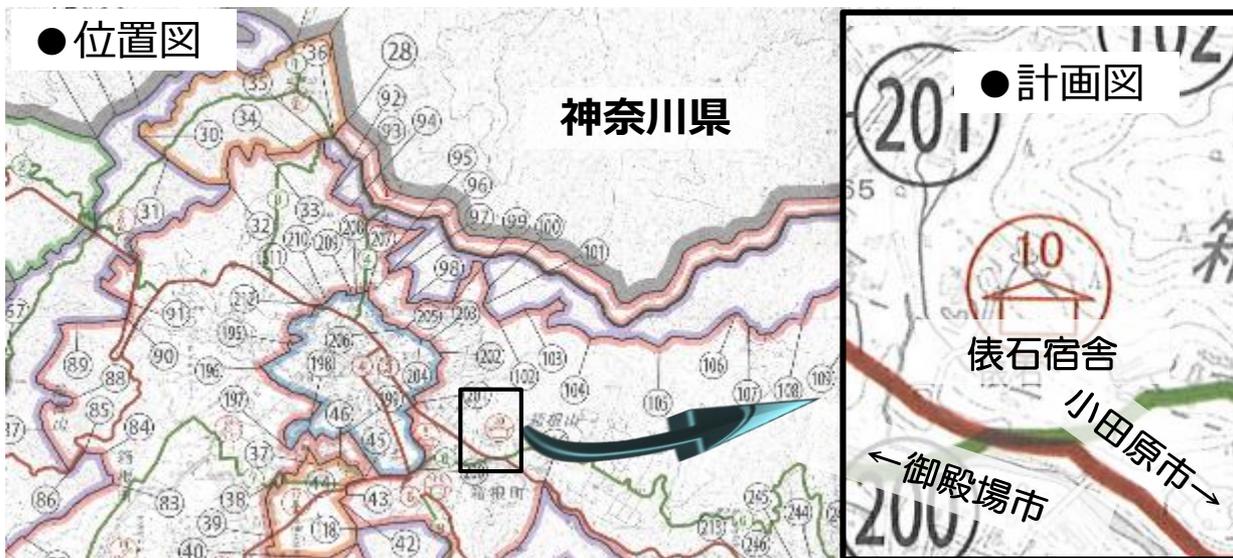
区域面積：7ha（変更なし）

最大宿泊者数：500人/日（変更なし）

執行者（予定）：民間

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●計画図



当該地は箱根外輪山の内側にあり、周辺は宿泊施設や別荘、美術館等が点在しており、大正時代から続く温泉地で古くから保養目的の観光客が多く訪れている。最近では周辺の美術館巡りや近隣の仙石原湿原の散策或いは、公共交通機関の便も良いことから、大涌谷などの箱根の主要な観光地を訪れるための拠点として利用されている。



- 当該地にて質の高いサービスを提供できる宿舎（2 ha）事業を計画している。
- 平成5年の事業変更時（3 ha→7 ha）の区域図の範囲が5 haであったため、今回区域面積に変更はない。
- 新築される宿舎は最大宿泊者数300人/日を予定している。既存宿舎は112人/日であるため、最大宿泊者数（500人/日）についても変更はない。

宿舎の新築

- 箱根の自然環境を活かした上質な宿泊サービスを提供するため、更地となっている別荘や保養所跡地及びスギの人工林を中心に宿舎を新築する

●事業計画(予定)



自然環境への影響

- 新たに宿舎及びその付帯施設は、保養所や別荘跡地が点在する箇所を中心に配置し、樹木の伐採は最小限に抑えることとする
- 伐採箇所はスギの人工林及び既存建物周辺とし、山林部分は改変しない
- 道路側や隣地界には既存樹木等を移植する等して植栽し、国道138号をはじめとする周囲の展望地から望見されにくい措置をとる

中部山岳国立公園 扇沢黒部湖線自動車運送施設

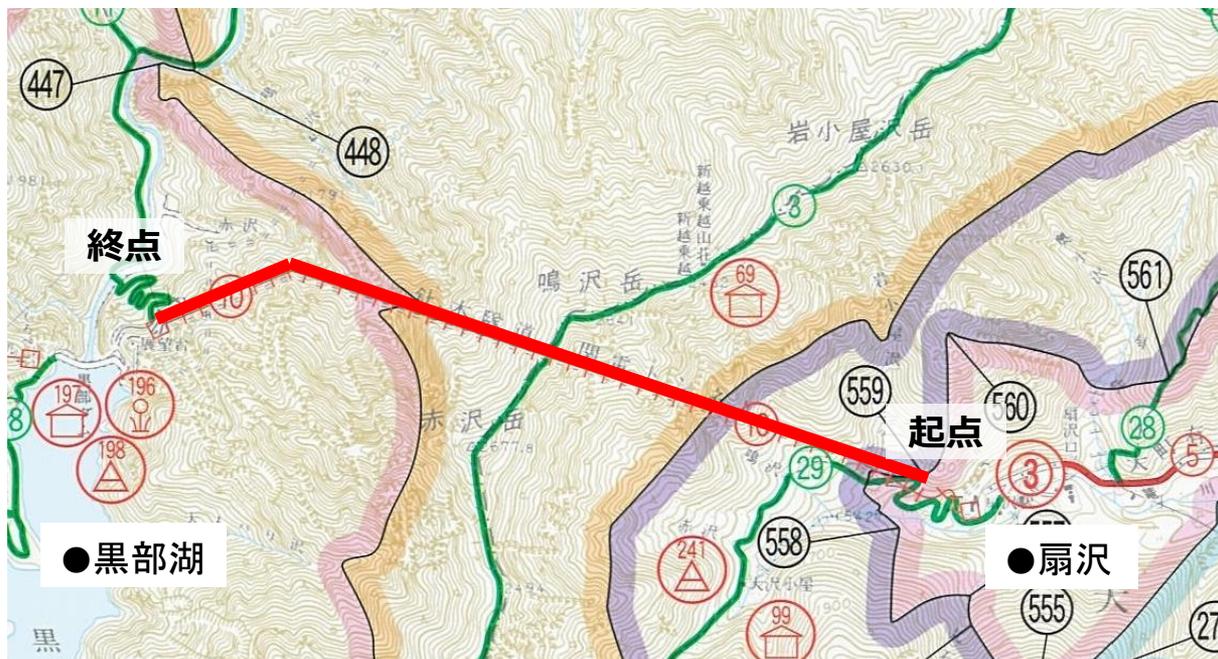
決定

路線距離：6.5km

執行者（予定）：民間

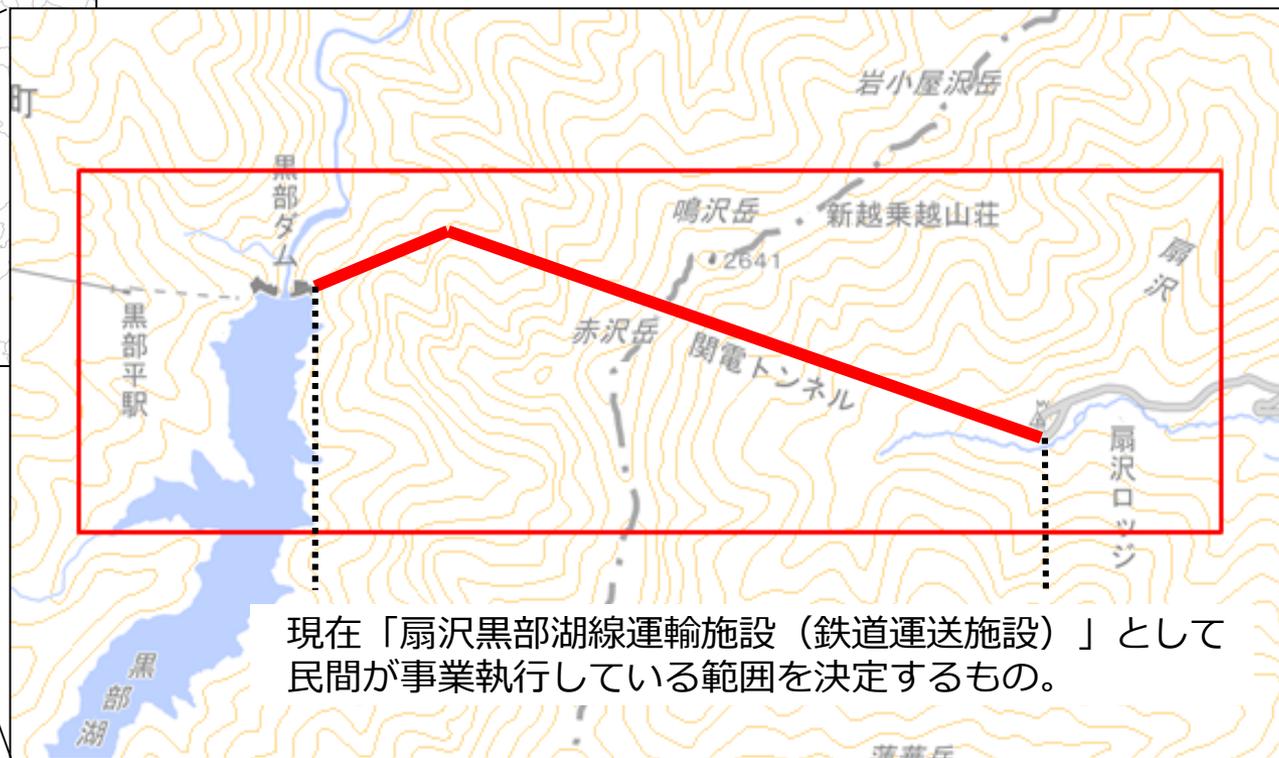
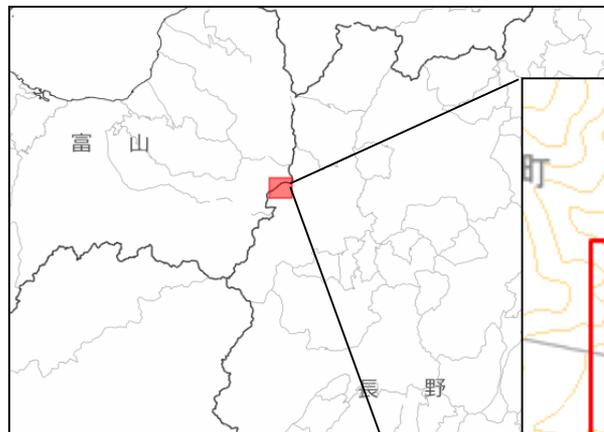
特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域（国有林、民有地）

●公園計画図



- 長野県大町市扇沢（扇沢集団施設地区）から富山県中新川郡立山町（黒部湖）に至る立山黒部アルペンルートの一部である。
- 黒部ダム及び黒部湖周辺の散策のほか、立山室堂の自然散策や劔岳をはじめとする立山連峰の登山のアクセスルートとして重要な拠点となっている。

決定区域図



事業規模

路線距離：6.5km

- 本事業地では、昭和39年から無軌条電車（以下、トロリーバス）が鉄道事業法の許可を受け運行されており、平成8年から鉄道運送施設として事業執行されている。
- 今般、安全上の理由等から電気バスへ変更するに伴い、鉄道運送施設から自動車運送施設へ事業種の変更を行うものである。事業執行者に変更はない。

既存施設の把握（駅舎、広場、洗車場等）

執行者：民間

- 現在設置されている駅舎、広場等については事業種変更後も継続して使用される。



扇沢駅舎



扇沢駅前広場



扇沢駅内降車ホーム

自然環境への影響

扇沢黒部湖線鉄道運送施設で整備された駅舎等を使用し、今回の決定に伴って新たに整備するものはない（充電施設は既に屋内へ設置済み）こと、排気ガスを排出しないトロリーバスから、同じく排気ガスを排出しない電気バスへ変更することから、本決定に伴う自然環境への影響はない。

中部山岳国立公園 黒部湖園地

変更

区域面積：9.3ha → 17.7ha
執行者（予定）：富山県、民間

第2種特別地域（国有林、民有地）



- 当該地は黒部ダム湖畔に位置し、黒部ダムを中心とした休憩や展望のための施設や湖岸散策のための施設が整備されており、多くの公園利用者に利用されている。

決定区域図



区域面積 : 9.3ha → 17.7ha



- 今回、これまで扇沢黒部湖鉄道運送施設の付帯施設として位置づけられていたレストハウスや展望テラス等の施設を今回の事業種変更に伴い園地事業として把握するため、区域の変更を行うもの。
- 黒部ダム右岸では富山県により、歩道等が整備され園地事業として執行されている。

既存施設の把握（レストハウス、展望施設等）

執行者：富山県、
民間

- 黒部ダム周辺の既存の展望施設及び休憩施設等を園地事業として把握するもの。



自然環境への影響

これまで扇沢黒部湖線鉄道運送施設として事業執行されてきた施設を園地事業に振り替えることに伴う変更であり、新たに整備を行うものではない。

中部山岳国立公園 扇沢黒部湖線鉄道運送施設

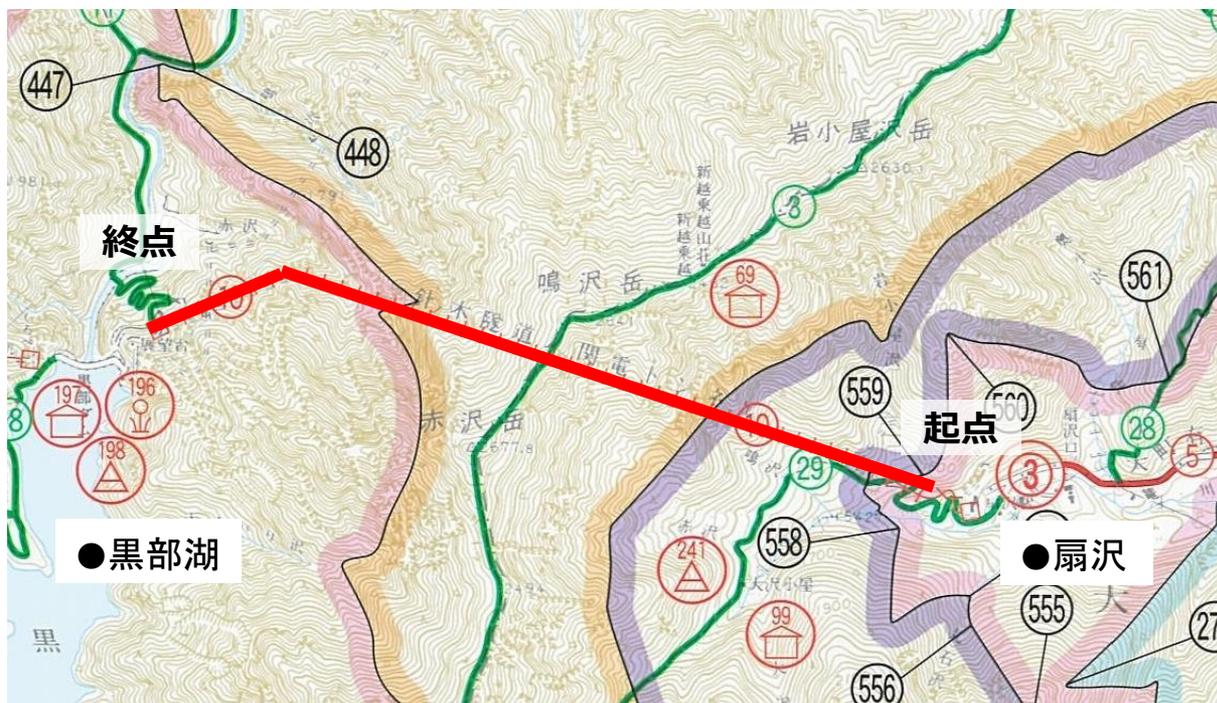
廃止

路線距離：6.5km

執行者：民間

特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域（国有林、民有林）

● 公園計画図



○ 立山室堂、劔岳等に至る立山黒部アルペンルートの一部として、長野県大町市扇沢（扇沢集団施設地区）から富山県中新川郡立山町（黒部湖）に至る鉄道運送施設である。昭和39年に鉄道事業法の許可を受け無軌条電車（以下、トロリーバス）の運行を開始し、現在では年間90万人以上が利用している。

廃止理由

- 平成18年に施行された「鉄道に関する技術上の基準に定める省令（平成18年国土交通省令第13号）」において「車両の運転に使用する乗務員室には、動力車を操縦する係員が運転操作不能となった場合に、列車を自動的に停止させることができる装置を設けなければならない」と規定され、本施設にもこの安全装置への対応が求められたが、現在トロリーバスの需要は少なく、安全装置設置に係る部品の製造が行われていないため、対応が困難な状況となっていた。
- トロリーバスの運行は、国土交通省令による経過措置により現在も続けているものの、平成31年度を目途に当該電気事業者はトロリーバスを廃止し、電気バスによる供用を検討している。
- 本事業は本公園利用上重要な施設であることから、公園計画においても事業種の変更を行い、引き続き公園事業として事業執行するもの。

自然環境への影響

廃止後も既存の施設は引き続き扇沢黒部湖線自動車運送施設で使用し、解体等を行わないため、廃止に伴う自然環境への影響はない。

事業規模

路線距離：16.0 km



四十八池高沢山線道路（歩道）決定区域図



- ぐんま県境稜線トレイルの一部区間として位置付けるため、新たに計画決定した区間を事業決定するもの。
- 群馬県、中之条町が執行予定。

歩道の維持管理

執行予定者：群馬県

- 四十八池分岐～ダン沢ノ頭の約8.0kmにて、ササの刈り払いなどの維持管理を行う。

執行予定者：中之条町

- ダン沢ノ頭～高沢山歩道合流点の約8.0kmにて、ササの刈り払いなどの維持管理を行う。



小高山から大高山方面を望む

標識の整備

執行予定者：群馬県

- ぐんま県境稜線トレイルのロゴマークプレートを既存標識等に設置することにより、トレイルコースであることを周知するとともに利用者を案内する。



カモシカ平と高沢山



起点の四十八池上分岐

自然環境への影響

- これまでも地元関係者により登山道維持管理の一環としてササの刈り払いが行われており、今後も定期的なササ刈りが必要。
- 既存の登山道を把握するもので、ササ刈りや標識の維持管理以外に新たな整備の予定はない。
- 登山道の管理者を明確にすることで、より適切な維持管理が図られる予定。

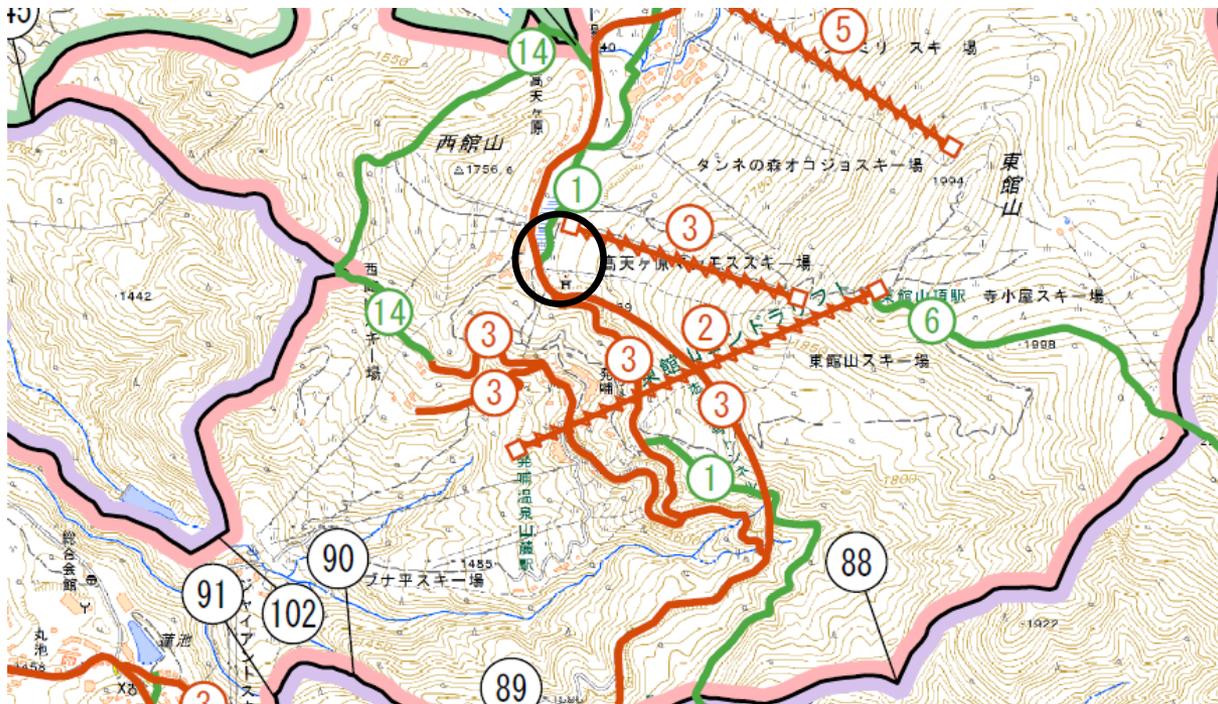
上信越高原国立公園 発哺野営場

廃止

区域面積、最大宿泊者数：未決定

第2種特別地域（民有地）

●公園計画図



○ 志賀高原集団施設地区の高天ヶ原地区に位置し、周囲はシラカバやダケカンバ等の落葉広葉樹の二次林のほか、宿泊施設やスキー場等の利用施設が集中して立地している。

廃止理由

- 本事業は昭和44年に廃止されて以降、事業執行がなされていない。
- 本事業地周辺においては宿舎事業による宿泊施設が多数立地しており、これら施設に滞在しての冬季におけるスキー利用が中心であるため野営場を整備する必要性に乏しく、今般公園計画から単独施設の計画を削除したことに併せて事業決定を廃止するものである。

自然環境への影響

既存施設はなく事業決定の廃止に伴う自然環境への影響はない。

上信越高原国立公園 志賀山回遊線道路（歩道）

変更

路線距離：10km→14.0km

執行予定者：長野県、山ノ内町
環境省

特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域（民有地）

●公園計画図



四十八池



大沼池

○志賀山を中心として火山活動によるカルデラ地形が形成され、四十八池や大沼池等の多数の池及び湿原が点在する特異的な景観が広がる歩道である。

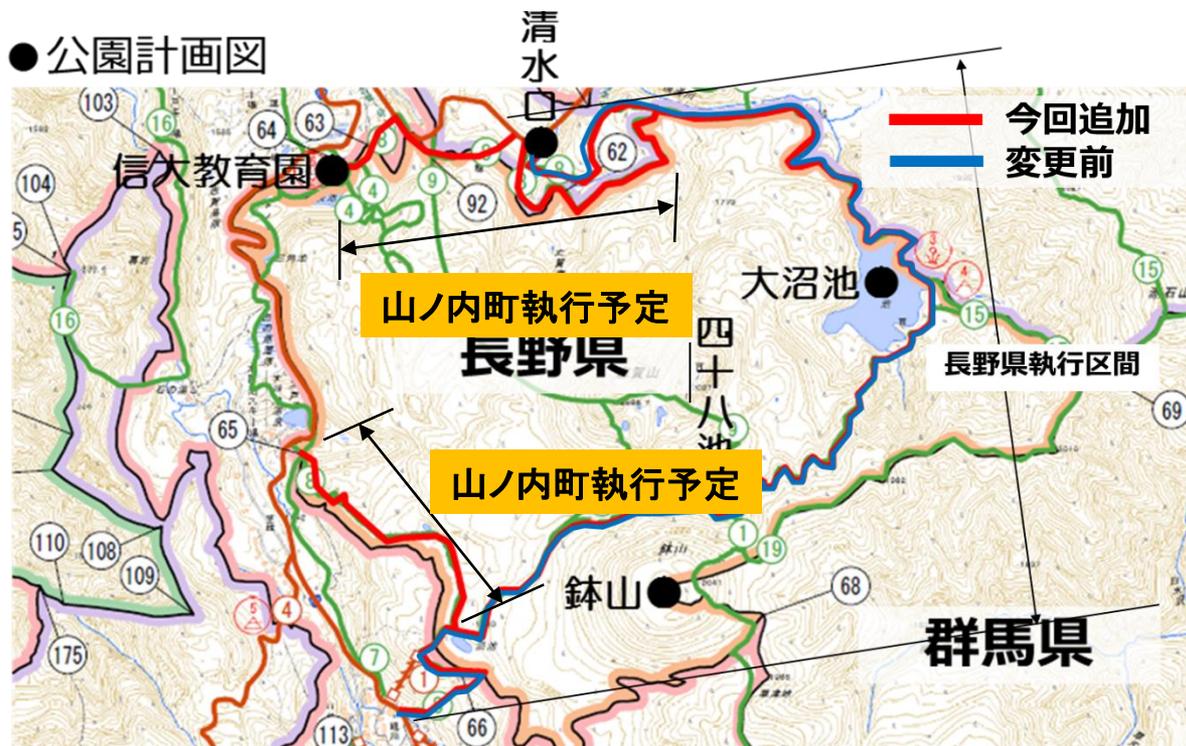
○原始的な自然環境の中で志賀高原を特徴付ける多様な景観を手軽に楽しめるため団体利用が多く、志賀高原で最も利用者の多い路線である。

既存施設の把握

路線距離：10km→14.0km

湿原環境の保全や公園を安全かつ快適に利用するために必要な木道、休憩舎、公衆便所などが整備されている

●公園計画図



長野県整備の四十八池木道



環境省整備の四十八池公衆便所

自然環境への影響

○公園計画の変更に伴い既存の歩道区間を追加するもので、新たな整備の予定はない。

上信越高原国立公園 横手山索道運送施設

変更

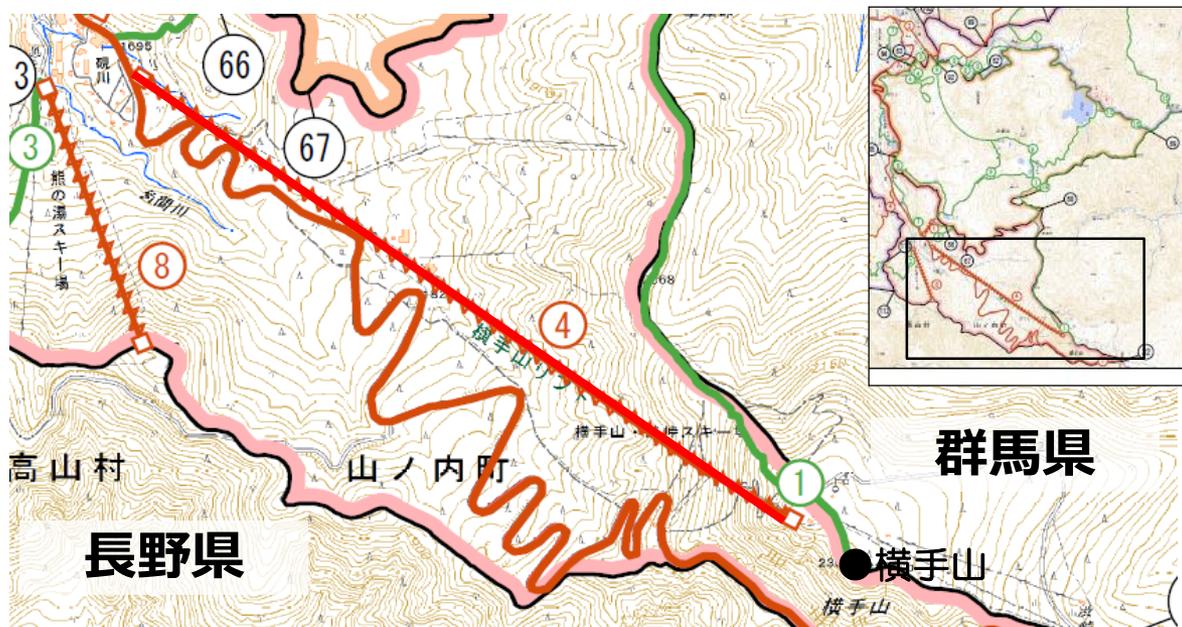
路線距離：3.0km

最大輸送量：1,800人/時

執行予定者：民間

第2種特別地域（民有地）

●公園計画図



第2カ所から志賀山方面



第1カ所から横手山方面

○起点となる横手山山麓の標高約1,700mから、終点となる横手山山頂付近の標高約2,300mに位置し、周囲はダケカンバ、オオシラビソ等の樹林帯が広がる。

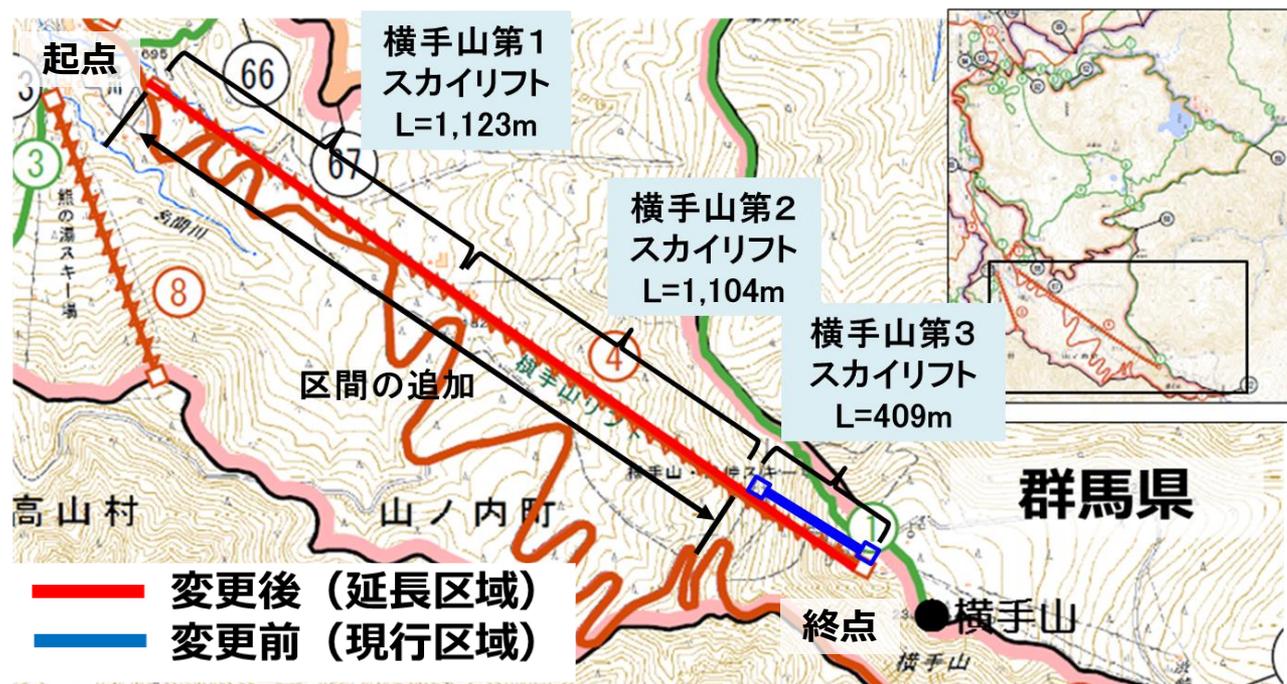
○冬期のスキー利用、夏期は登山や横手山山頂における展望利用がされている。

既存施設の把握

路線距離：決定なし→3.0km 最大輸送量：1,800人/時

リフトからの展望、星空観察等の夏季利用を行うため、これまでスキー場事業に位置付けられていた既存の索道区間を追加するものである。

●公園計画図



横手山頂駅から見た第3スカイリフト

自然環境への影響

○既存のスキー場事業の索道を索道事業に振り替えるもので、新たな整備の予定はない。夏季利用についてもリフト上からの展望等、スキー場内での利用が主であることから、周辺の自然環境に大きな影響は生じない。

瀬戸内海国立公園 伊崎牛ヶ首線道路（車道）

決定

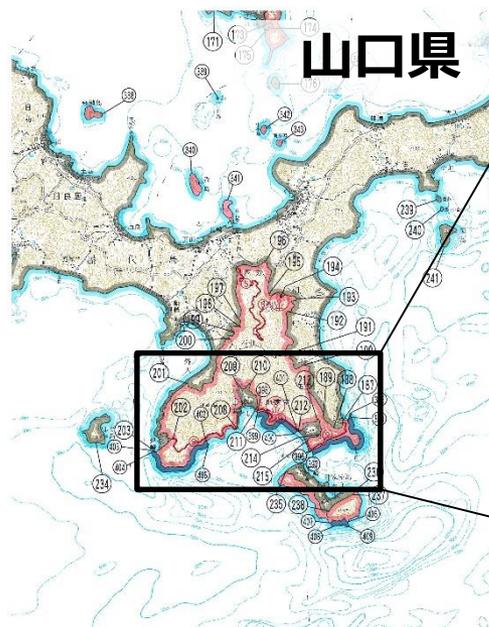
路線距離：6.0km

有効幅員：7.0m

執行者：山口県

第2種特別地域（県有地）

●位置図



●公園計画図



南部より望む
伊崎牛ヶ首線道路（車道）

- 屋代島の中央南部の海岸沿いを通り、主に北側は急勾配の山地となっている。
- 南側に広がる海は、日本最大規模の二ホンアワサンゴ群衆を中心とした海域公園地区に指定されている。
- 事業地周辺の主な利用形態は、シュノーケリングやダイビングのほか海釣りなどである。

伊崎牛ヶ首線道路（車道）

路線距離：6.0km、有効幅員：7.0m

決定区域図

海域公園地区
案内看板

ニホンアワサンゴ

- 周防大島町には100万人／年以上の利用者がおり、平成25年以降増加傾向である。（平成25年：約92万人→平成29年：約106万人）
- ニホンアワサンゴ群衆等の海中景観を採勝するルートを公園事業として執行するため、既存の道路の範囲を決定するものである。

既存施設の把握（車道）

執行予定者：山口県

日本最大規模の二ホンアワサンゴ群集を中心とした海域公園地区に隣接するとともに、主要県道として、地域住民の生活を支える重要な生活道路でもある。



自然環境への影響

今後道路改良工事がなされる際は、

- 主要な展望地からの望見を避け、構造物は自然物若しくは自然物に模した素材を用い、法面では緑化を図る
- 排水処理施設による工事排水の処理や汚濁防止膜の設置、サンゴ等のモニタリング実施などの環境保全対策を図る

といった配慮を行い、風致・景観上の支障を最小限にとどめるよう配慮する。

瀬戸内海国立公園 姫原宿舎

決定

区域面積：1.0ha

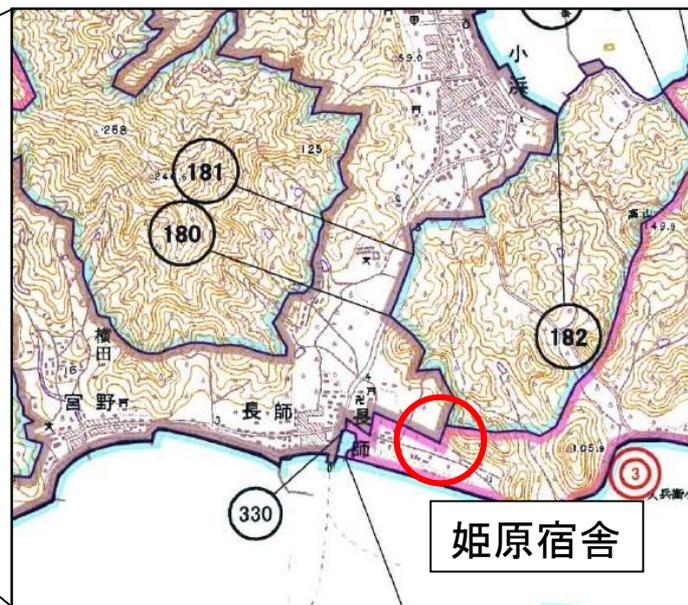
最大宿泊者数：100人/日

執行者（予定）：松山市

第2種特別地域、（公有地（松山市））

●位置図

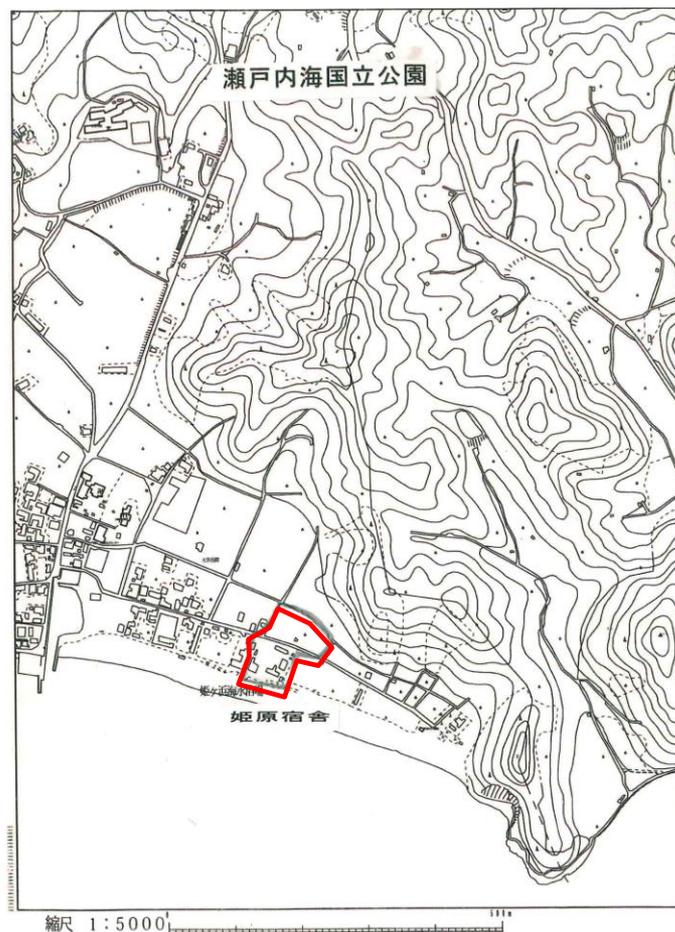
●公園計画図



姫ヶ浜

- 愛媛県松山市の沖合約10km、人口約3千人の中島の南に位置する。集団施設地区の中心に姫ヶ浜海水浴場があり、夏の海水浴が利用の中心である。8月下旬にはトライアスロン大会のメイン会場として、毎年500人以上の利用がある。

姫原宿舎決定位置図



区域面積：1.0ha

最大宿泊者数：100人/日



既存宿舎（行為許可）



既存トイレ

現在売店や東屋、トイレが設置されている区域（県が園地事業として執行）を市が老朽化した宿舎の建て替え（行為許可で設置）を含め再整備するため、宿舎事業として決定するもの。

宿舎の建て替え

執行者：松山市

既存の宿泊施設は供用開始後約38年が経過し、老朽化や設備の劣化が著しいため建て替える。併せて周辺施設の再整備を行う。

■ 現在（県執行園地＋宿泊施設（行為許可））



■ 整備内容（予定）



自然環境への影響

既存の施設がある平坦な土地で土地の改変はほとんどない。
また、支障木の伐採も植栽木である。
排水は浄化槽によって処理し、海洋環境へ影響を与えないようにする。

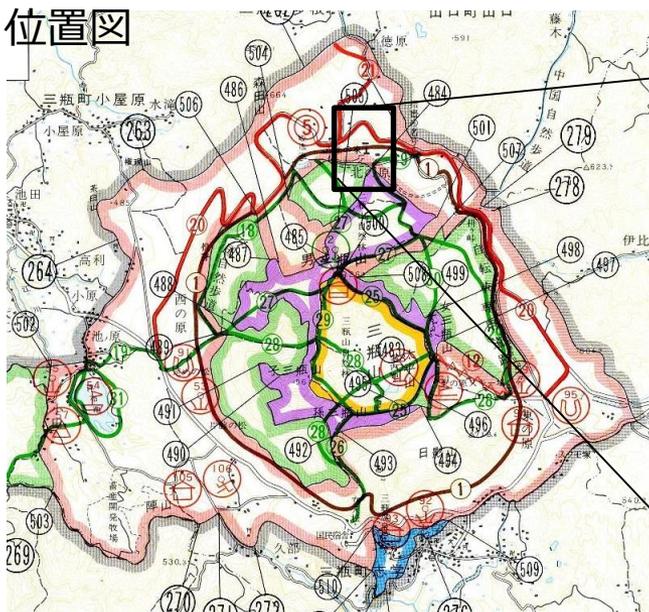
大山隠岐国立公園 北の原博物展示施設

変更

区域面積：1.2ha→2.6ha
 執行者：島根県

第2種特別地域（島根県有地、大田市有地）

●位置図



●計画図



北の原・姫逃池



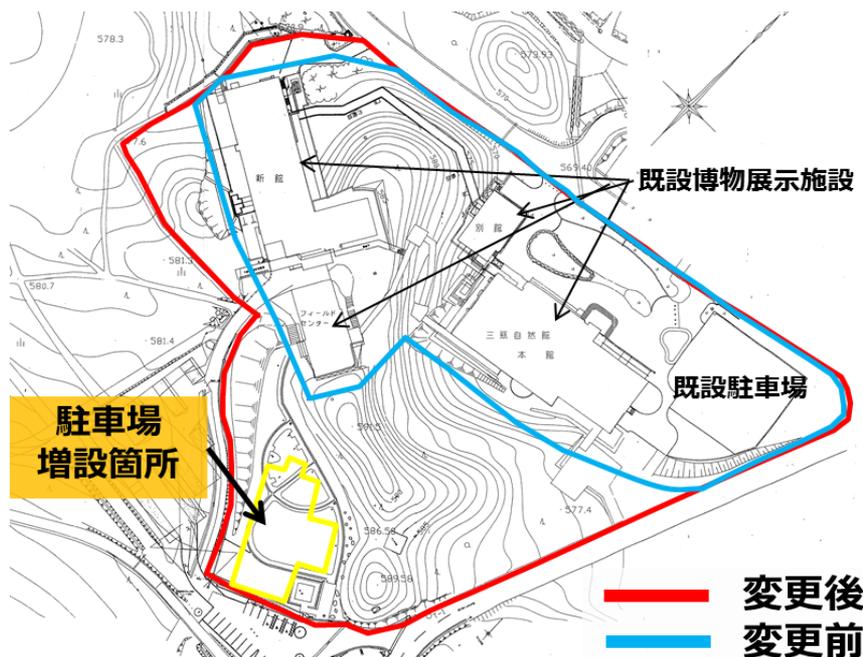
博物展示施設

- 大山隠岐国立公園三瓶山地域の利用の中核をなす、三瓶山の北側の緩やかな斜面に広がる北の原と呼ばれる草原（高原）景観地帯に位置
- 主な利用形態は三瓶山登山・山麓の高原の散策等である。
 （平成29年：地域入込者数約60万人、施設来館者数約11万人）

駐車場の増設

区域面積：1.2ha→2.6ha

駐車場規模が小さくシーズン時には満車となり利用に支障が生じているため、駐車場の拡充を行う（現在47台、増設34台）。あわせて、これまで博物展示施設と一体的に管理されてきた区域について、把握するもの。



自然環境への影響

- 駐車場の増設は既に整備が入っている場所に再整備するものであり、自然林の樹木の伐採は生じない。
- 土地の形状変更は、駐車場の利用の快適性を確保するために必要な整地に留め、既存整備箇所外での新たな地形の改変は行わない。

奄美群島国立公園 湯湾新村線道路（車道）

決定

路線距離：8.1km

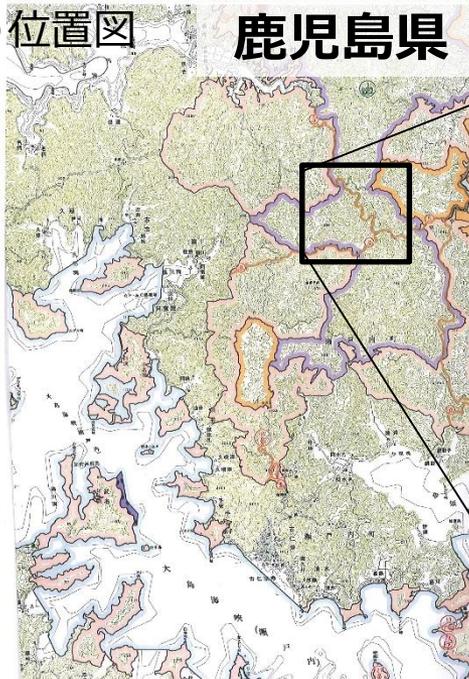
有効幅員：6.0m

執行者：環境省、鹿児島県（予定）

第1種特別地域、第2種特別地域（県有地）

●位置図

鹿児島県



●公園計画図



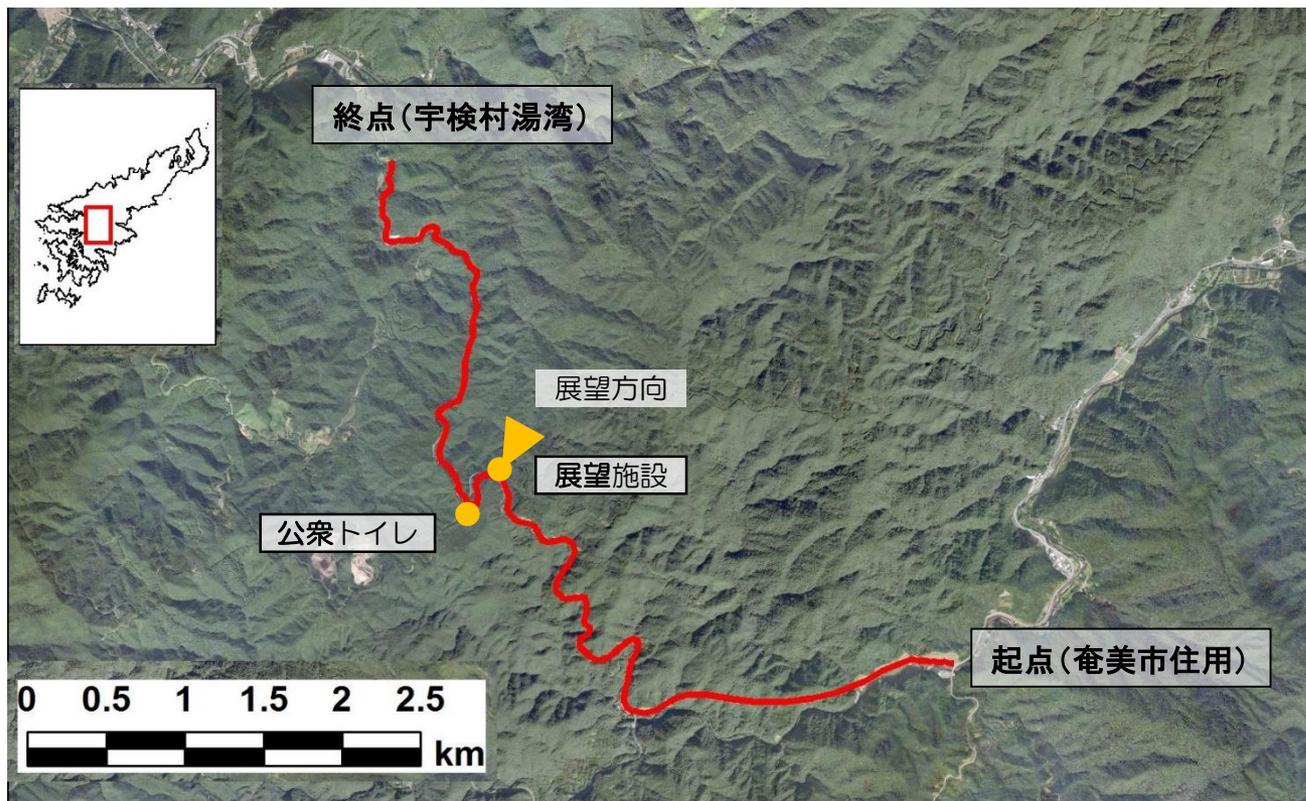
展望施設からの眺望



車道（湯湾新村線）

- 大島地域の北西部に位置し、奄美市住用町の国道58号線分岐を起点とし、大島郡宇検村の湯湾へ至る車道である。
- 車道は、役勝川上流の高齢照葉樹林が混じる若齢林を主体とする地区にあり、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ等の固有種が生息し、保護の重要性の高い地域を通過する。
- 車道の中間点には、展望施設が設けられ、湯湾岳等の照葉樹林を望むことができる。

湯湾新村線道路（車道）



車道（県道85号）



道路沿いの展望施設

事業規模 路線距離：8.1km 有効幅員：6.0m

- 当該車道は本国立公園を周遊するための利用上重要な路線である。
- 鹿児島県が県道85号湯湾新村線として整備しており、既存の施設を把握するもの。



公衆トイレと駐車場

既存施設の把握

執行者：環境省、
鹿児島県（予定）

- 鹿児島県が県道85号湯湾新村線として整備している。



起点(奄美市住用)付近



起点から約2km地点
(役勝トンネル)



起点から約5km地点

- 環境省が展望施設の一角に標識を整備している。



自然環境への影響

- 現時点では現況施設を把握するのみで自然環境への影響はない。今後、道路改修を実施する際には、改変面積や支障木の伐採を必要最小限とし、周囲の自然環境に風致上支障のないよう配慮した手法で実施する。

奄美群島国立公園

奄美自然観察の森線道路（車道）

決定

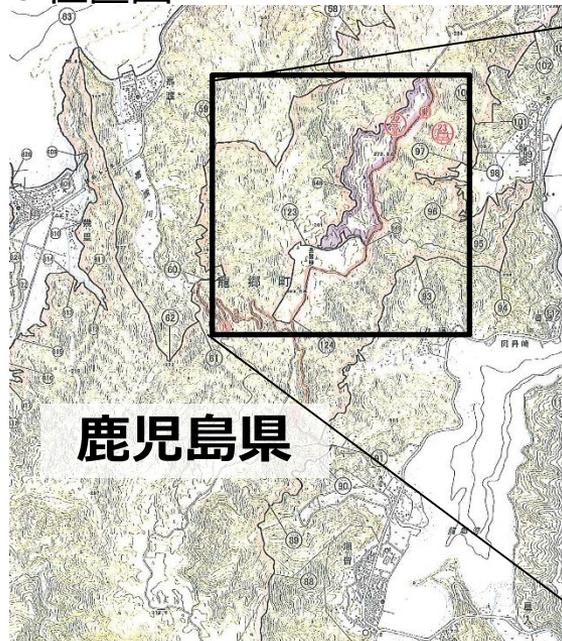
路線距離：6.8 km

有効幅員：①～②5.5m ③～④6.0 m

執行予定者：環境省、龍郷町

第2種特別地域（公有地（龍郷町））

●位置図

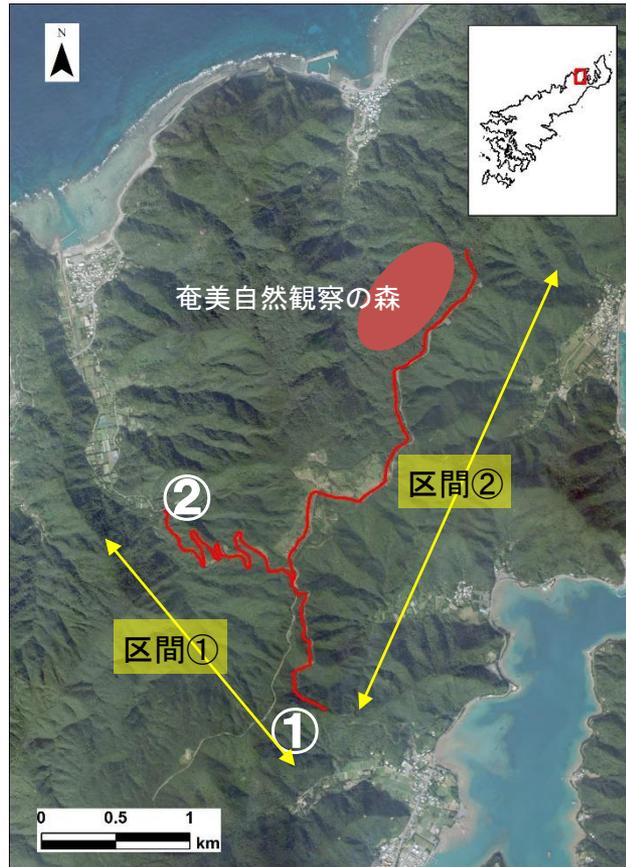


●公園計画図



- 当該車道は奄美群島国立公園大島地域の南東部に位置し、龍郷町瀬留及び嘉渡の国立公園境界を始点とし、長雲峠を経て自然観察の森へ至る車道である。
- 当該車道は、奄美自然観察の森を中心とした地区で、奄美大島北部におけるアマミノクロウサギやルリカケス、アマミイシカワガエル等の重要な生息地となっている。

決定区域図



- 奄美自然観察の森へのアクセスルートとして、龍郷町により道路が整備されており、既存の施設を公園事業として把握する。



事業決定規模

路線距離：6.8km

有効幅員：区間①6.0m 区間②5.5m

- 当該車道は主に利用・探勝拠点である奄美自然観察の森へ続くアクセスルートとして利用されている。
- 当該車道が接続する奄美自然観察の森は、自然観察や風景探勝の利用拠点として、探勝路、展望台、休憩所やトイレ等が整備されており、近年は個人利用者の他、団体利用者による利用も増加していることから、本国立公園の利用上重要な路線である。

既存施設の把握（道路、標識）

- ・ 龍郷町により有効幅員5.5～6.0mの町道が整備がされている。



① 起点(嘉渡)から約1.0km地点



② 起点(瀬留)から約1.2km地点



③ 奄美自然観察の森線(終点)

- ・ 環境省が国立公園の標識を整備している。



国立公園標識(久場(終点))



撮影位置

自然環境への影響

- 既に整備されている道路を把握するものであり、再整備を行うものではない。

奄美群島国立公園 宮古崎線道路（歩道）

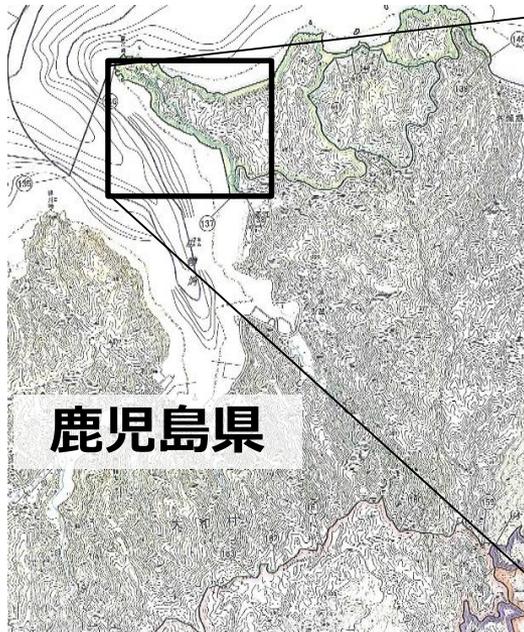
決定

路線距離：2.4 km

執行者：大和村

第3種特別地域（公有地（大和村））

●位置図



鹿児島県

●公園計画図



●宮古崎線道路（歩道）



笹原が広がる宮古崎

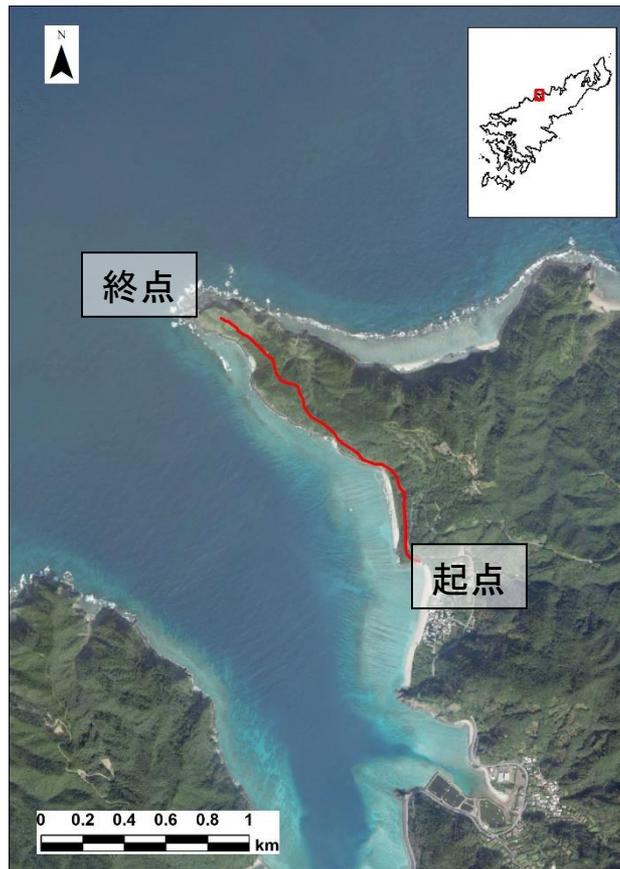


宮古崎からの景観

- 奄美大島地域北西部の宮古崎に位置し、大和村役場から県道を北西方向に進み、5km程進んだところにある。
- 事業地は、ササ原やタイワンヤマツツジが特徴となっているほか、海岸断崖植生も見られる地区で、当該公園のなかでも特異な景観を有している。岬の先端はササ原で展望が良く、海域公園地区のある摺子崎が遠展望できるほか、珊瑚礁が広がる思勝湾が展望できる。

事業規模

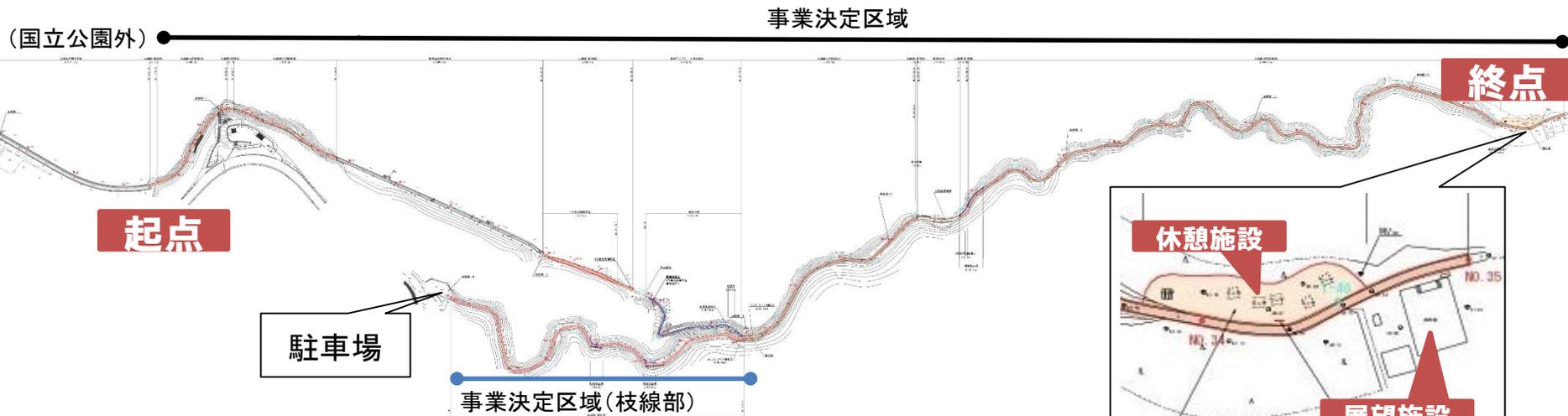
路線距離：2.4 km



- 事業地周辺の主な利用形態は、国直海岸から宮古崎に至る海岸歩道の自然探勝及びササ原となっている宮古崎から望む海岸景観の風景鑑賞であり、利用者は年間1,000人程度である。
- 既に整備されている歩道の区間を決定するものである。

執行者：大和村

既存施設の把握（歩道、展望施設等）



遊歩道



展望施設



休憩施設(テーブル・ベンチ)

自然環境への影響

- 既に整備されている歩道を把握するものであり、新たな工事は行われない。

奄美群島国立公園 湯湾岳登山線道路（歩道）

決定

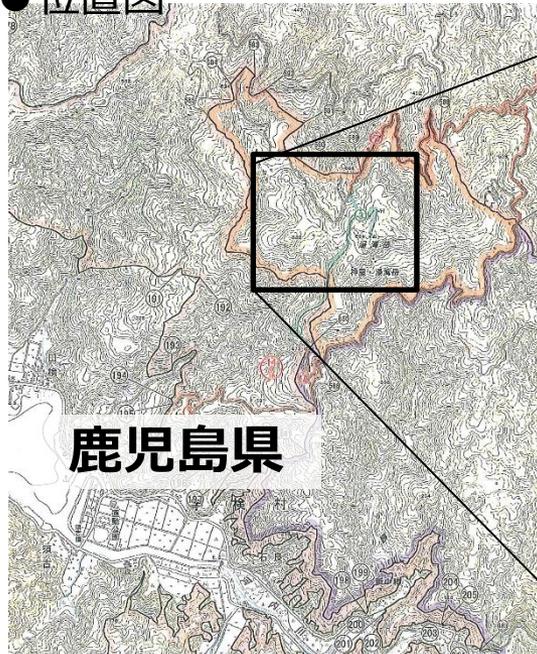
路線距離：2.2km

執行者（予定者）：

大和村、宇検村、環境省

特別保護地区、第2種特別地域（国有地、村有地）

●位置図



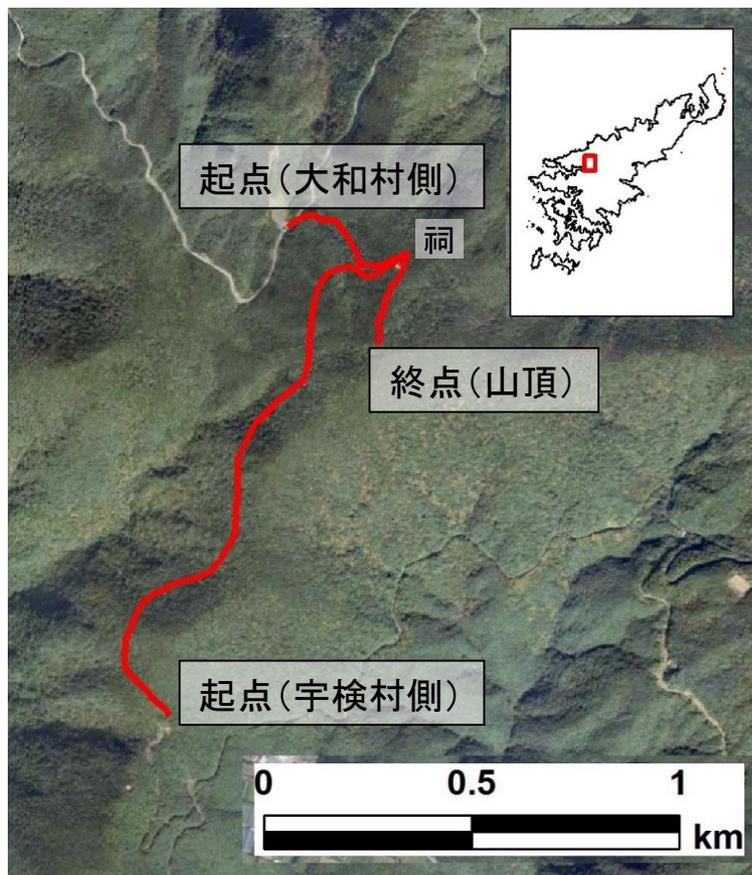
●公園計画図



歩道入口（大和村側）

- 湯湾岳は大和村と宇検村の境界付近に位置し、山頂は大和村有地となっている。湯湾岳園地（宇検村）もしくは林道田剣福元線（大和村）から山域に入ることができる。
- 湯湾岳は古くから霊峰としても崇められ、山頂手前に広場があり、お堂や祠がある。
- 本歩道周辺は、標高500～650mにあり、100年生以上の高齢照葉樹林と山頂付近の風衝低木林等からなり、奄美大島の中でも植物や昆虫などで固有種が多い核心的な地域である。

湯湾岳登山線道路（歩道）



事業規模

路線距離：2.2 km



- 本事業地は、大和村と宇検村によって歩道が整備されており、今回決定する範囲は、既存施設の範囲である。
- 大和村側の歩道は、延長400mあり、一部区間はボードウォークが整備されており、容易に山頂に到達することができる。
- 宇検村側の登山道は延長1800mあり、簡易な標識等が設置されているのみの自然性の高い歩道で利用者は少ない。

執行者（予定者）：大和村、宇検村、環境省

展望施設の整備（環境省）

- ・ 祠周辺の広場となっている一角の範囲で、保全を図りながら利用の満足度を高めるため、湯湾岳の森を一望できる展望施設を設置する。
- ・ 展望施設の高さは、森林の樹冠の高さより高くないように配慮する。
- ・ 整備と並行して適正利用のためのルールを検討する。



自然環境への影響

整備等を行う際は、周囲の風致景観との調和に留意し、土地の改変や支障木の伐採を必要最小限に抑える等、希少種の生息・生育地の保全上支障がないよう十分に配慮する。

やんばる国立公園 茅打バンタ園地

決定

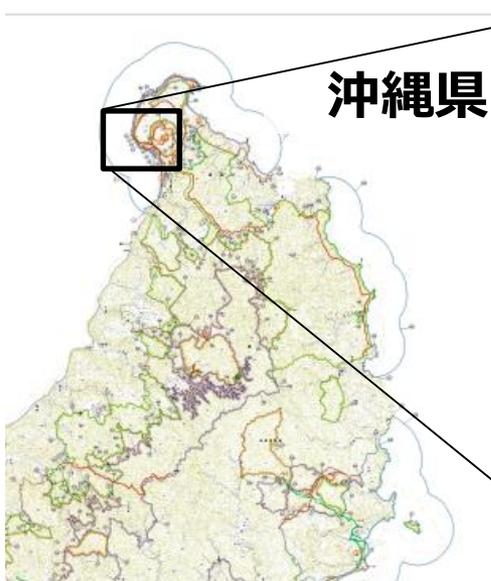
区域面積：0.8ha

執行者（予定者）：沖縄県

第2種特別地域（公有地（沖縄県））

●位置図

●公園計画図



園地からの展望



○やんばる国立公園の景観要素の一つである石灰岩地に位置し、断崖と海の礁斜面が織りなす風景を眺望できる。

○本園地は車によるアクセスが容易であり、また周辺には、宜名真園地（平成25年度利用者数60,000人）や辺戸園地（平成25年度入込客数約437,650人）などもあることから、本島北部の周遊ルートとして本園地の果たす役割は大きい。

茅打バンタ園地決定区域図



事業規模

区域面積 : 0.8 ha



園地からの展望



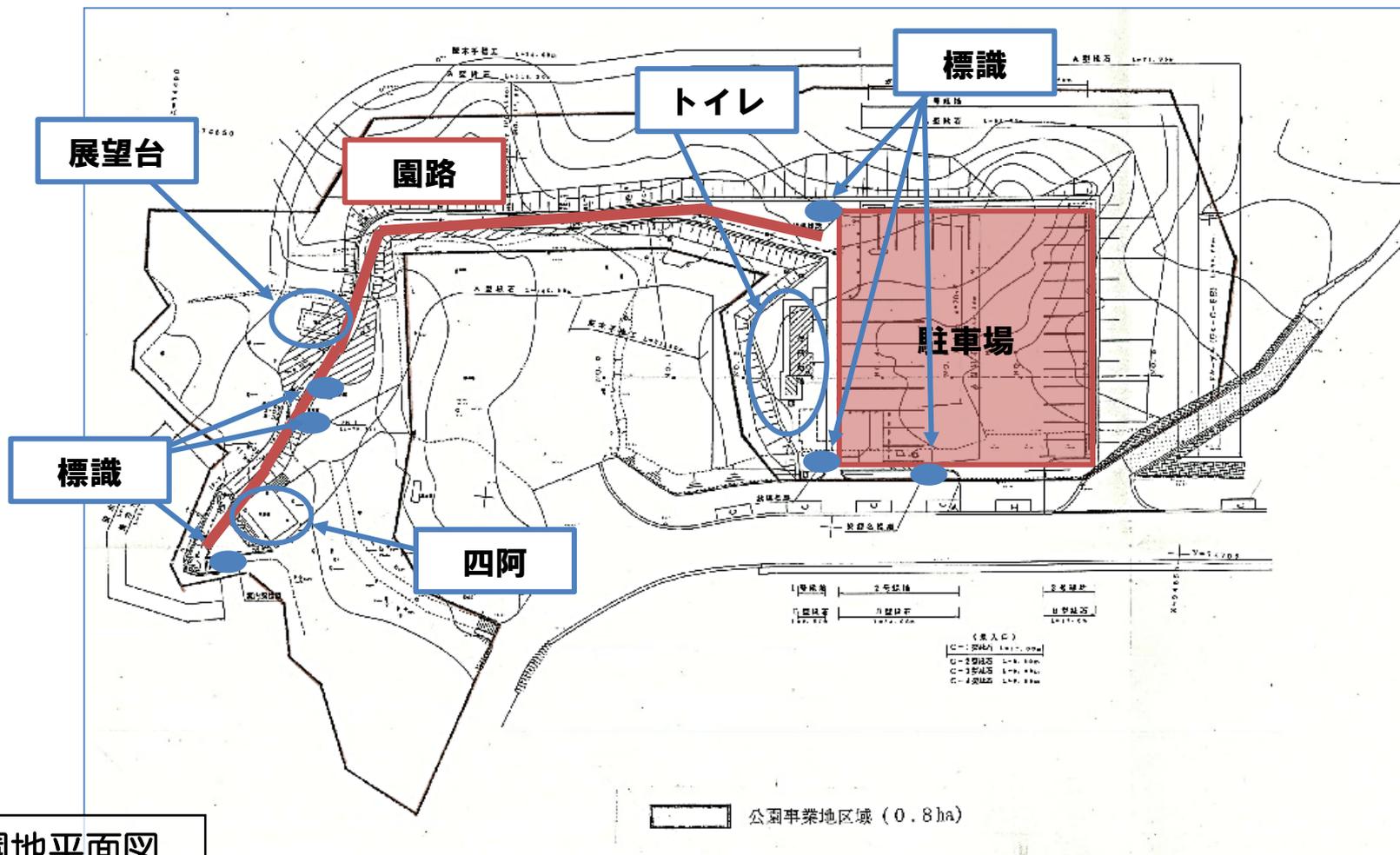
園路

○沖縄海岸国定公園時に整備されていた駐車場、トイレ、園路等の範囲について事業決定するもの。

既存施設の把握（駐車場、トイレ、園路）

執行者：沖縄県

- 沖縄海岸国定公園事業として、公園を安全かつ快適に利用するために必要な駐車場、トイレ、四阿等が整備されている。（沖縄県）



既存施設の把握（駐車場、トイレ、園路）

執行者：沖縄県

- 沖縄海岸国定公園事業として、公園を安全かつ快適に利用するために必要な駐車場、トイレ、四阿等が整備されている。（沖縄県）



駐車場



トイレ



四阿



標識



園路



標識

自然環境への影響

今回の事業決定は、既存施設の把握であり、周囲の自然環境へ与える影響はない。また、今後施設の長寿命化対策を予定しているが、大規模な土地の改変等は想定されず、周囲の自然環境へ与える影響は最小限であると考えられる。

慶良間諸島国立公園

照山園地

決定

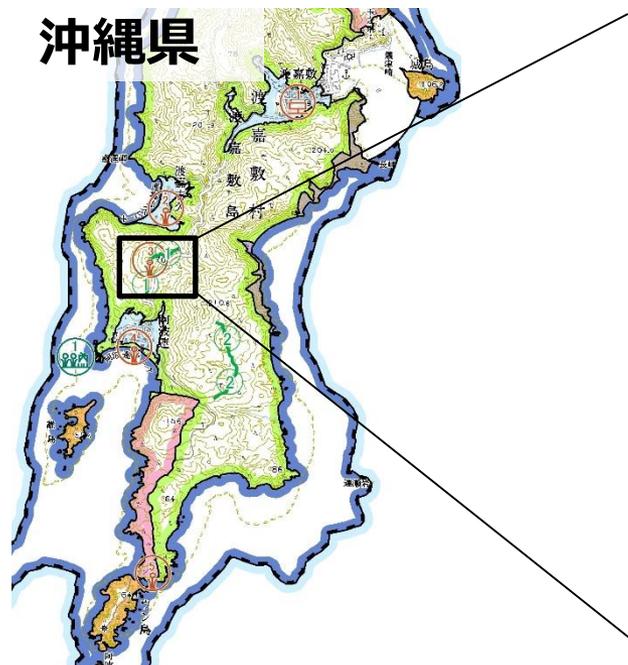
区域面積：0.13ha

執行予定者：沖縄県

第3種特別地域（公有地（渡嘉敷村）、民有地）

●位置図

●公園計画図



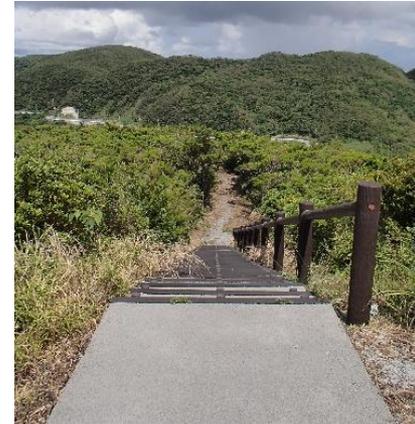
渡嘉敷島の玄関である渡嘉敷地区から、利用拠点である阿波連地区をつなぐ県道沿いに位置する。照山の傾斜地にあり、頂上からは、丘陵地形に広がる森林、白い砂浜、ケラマブルーと称される海、多島海景観等を眺めることができる。主な利用形態は照山展望台からの展望、休憩、周辺の自然散策等。

照山園地決定区域図



事業規模

区域面積 : 0.13ha



園路



園路

沖縄海岸国定公園時に整備された照山山頂の展望デッキ、園路の入口に設置された公衆便所、車道から展望デッキに至る歩道の周辺を事業の決定区域として設定する。

既存施設の把握（展望デッキ、公衆便所、園路）

執行予定者：沖縄県

- 沖縄海岸国定公園事業として、公園を安全かつ快適に利用するために必要な展望デッキ、公衆便所、園路等が整備されている。（沖縄県）



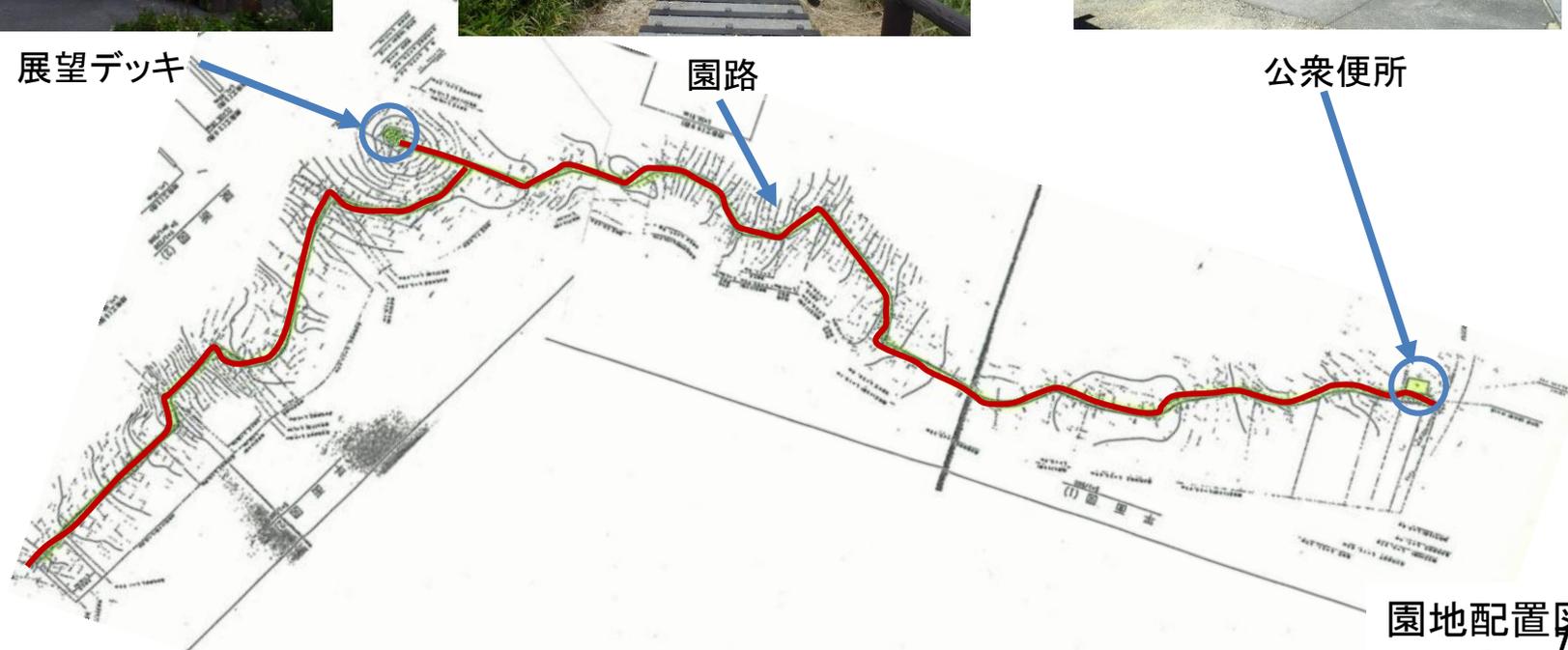
展望デッキ



園路



公衆便所



園地配置図

標識の整備

執行予定者：沖縄県

- 必要な情報発信を行うため、多言語に対応した標識の整備を行う。（沖縄県）



【完成イメージ】

自然環境への影響

○新たに整備される標識は、すでに整備された土地に設置される予定であることから、新たな土地の改変や支障木の伐採は伴わず自然環境への影響は最小限である。



既存標識

国立公園満喫プロジェクトについて

- 慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2020に以下のとおり位置づけられている。
 - ・平成29年度より順次平成32年度までに、老朽化した既存施設について、標識の多言語化やトイレのユニバーサルデザイン化を中心に改修を行う。

慶良間諸島国立公園 チシ園地

決定

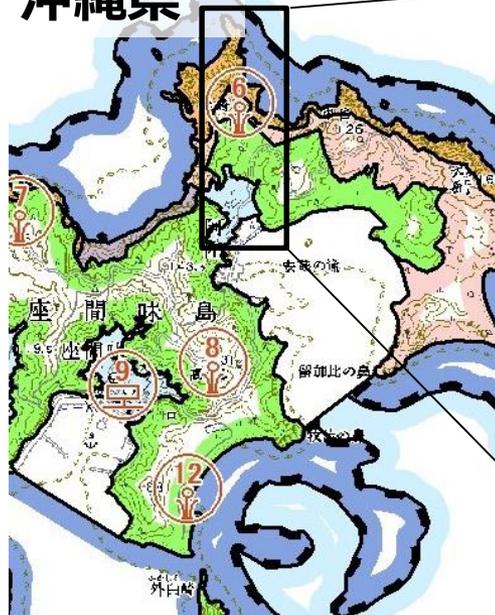
区域面積：0.1ha

執行者（予定）：沖縄県

特別保護地区、第2種特別地域（公有地（座間味村））

●位置図

沖縄県



●公園計画図



チシ園地（休憩所）



チシ園地（休憩所から）

座間味島の集落の一つである阿佐地区から約1.2kmに位置する。北方向にはサンゴ礁やその先に広がる海域、東西方向には100m程の海食断崖、崖上は樹高の低いリュウキュウマツやコウライシバ等で構成される風衝植生が見られる。主な利用形態は、チシ展望台（休憩所）からの展望、休憩、周辺の自然散策等。

チシ園地決定区域図



事業規模

区域面積 : 0.1ha



公衆便所
及び園路



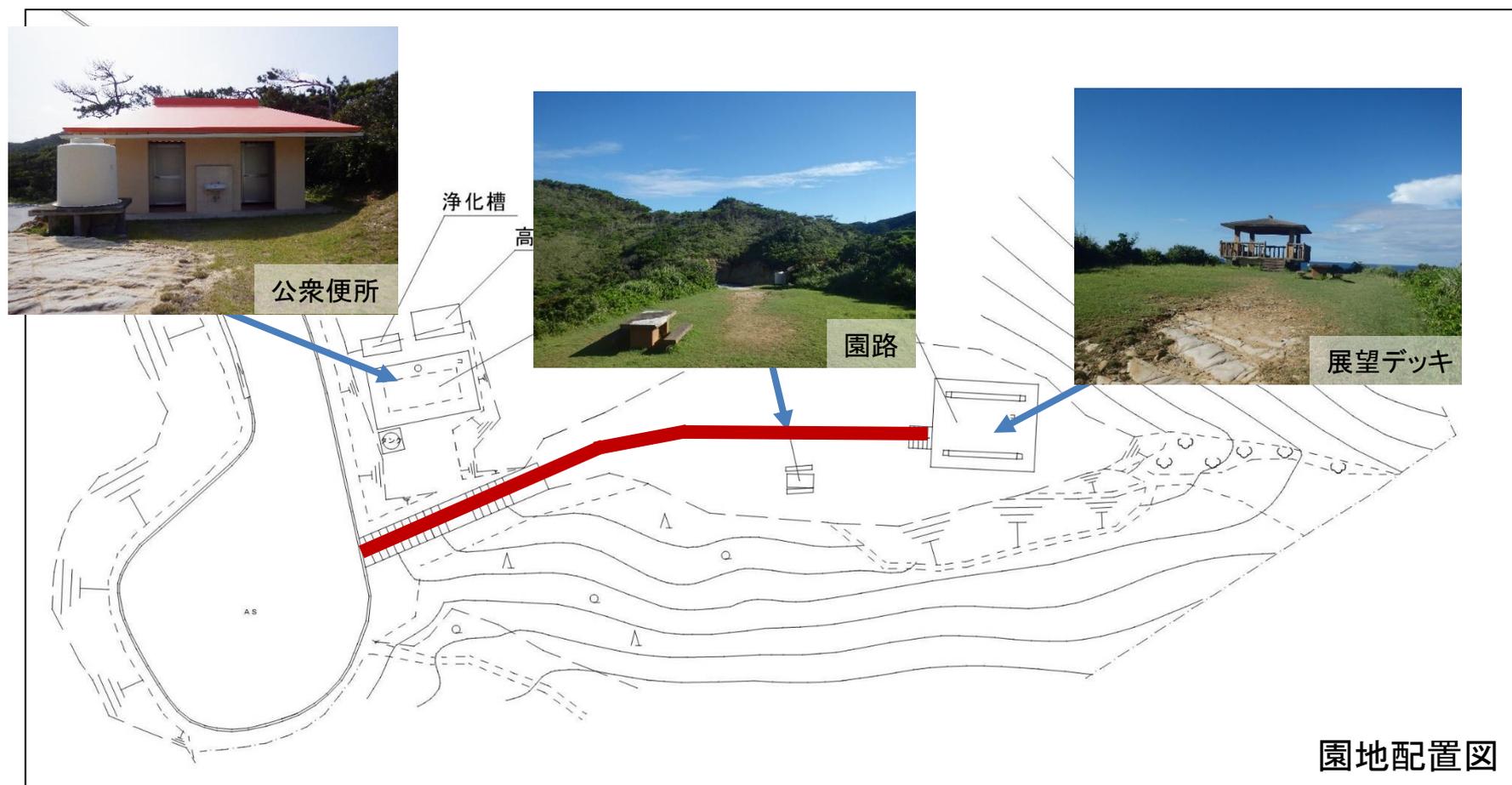
防護柵

○沖縄海岸国定公園時に整備された展望台（休憩所）、公衆便所、ベンチ、階段、防護柵、駐車場を事業区域として決定するもの。

既存施設の把握（休憩所、公衆便所、ベンチ等）

執行者（予定）：沖縄県

- 沖縄海岸国定公園事業として、公園を安全かつ快適に利用するために必要な休憩所、公衆便所、ベンチ等が整備されている。（沖縄県）



標識の整備

執行者（予定）：沖縄県

- 必要な情報発信を行うため、多言語に対応した標識の整備を行う。（沖縄県）



【完成イメージ】

自然環境への影響

○新たに整備される標識は、すでに整備された土地に設置される予定であることから、新たな土地の改変や支障木の伐採は伴わず自然環境への影響は最小限である。



チシ園地入口

国立公園満喫プロジェクトについて

○慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2020に以下のとおり位置づけられている。

p.24、32

- ・ビューポイントを中心にWi-fi環境、ユニバーサルデザイン化したトイレ、ITやAR（拡張現実）を用いた多言語に対応した解説板や標識の整備を行う。（環境省、沖縄県、渡嘉敷村、座間味村）

慶良間諸島国立公園 越原園地

決定

区域面積：0.1ha

執行予定者：沖縄県

第3種特別地域（民有地）

●位置図

沖縄県



●公園計画図



越原園地（休憩所）



越原園地

阿嘉島の唯一集落である阿嘉地区から約4.5kmに位置する。海食崖上にあり、阿嘉島中央の丘陵地形に広がる森林、海岸線の海食地形、外洋方向には久場島等が見られる。主な利用形態は、クシバル展望台（休憩所）からの展望、休憩、周辺の自然散策等。

事業規模 区域面積：0.1ha

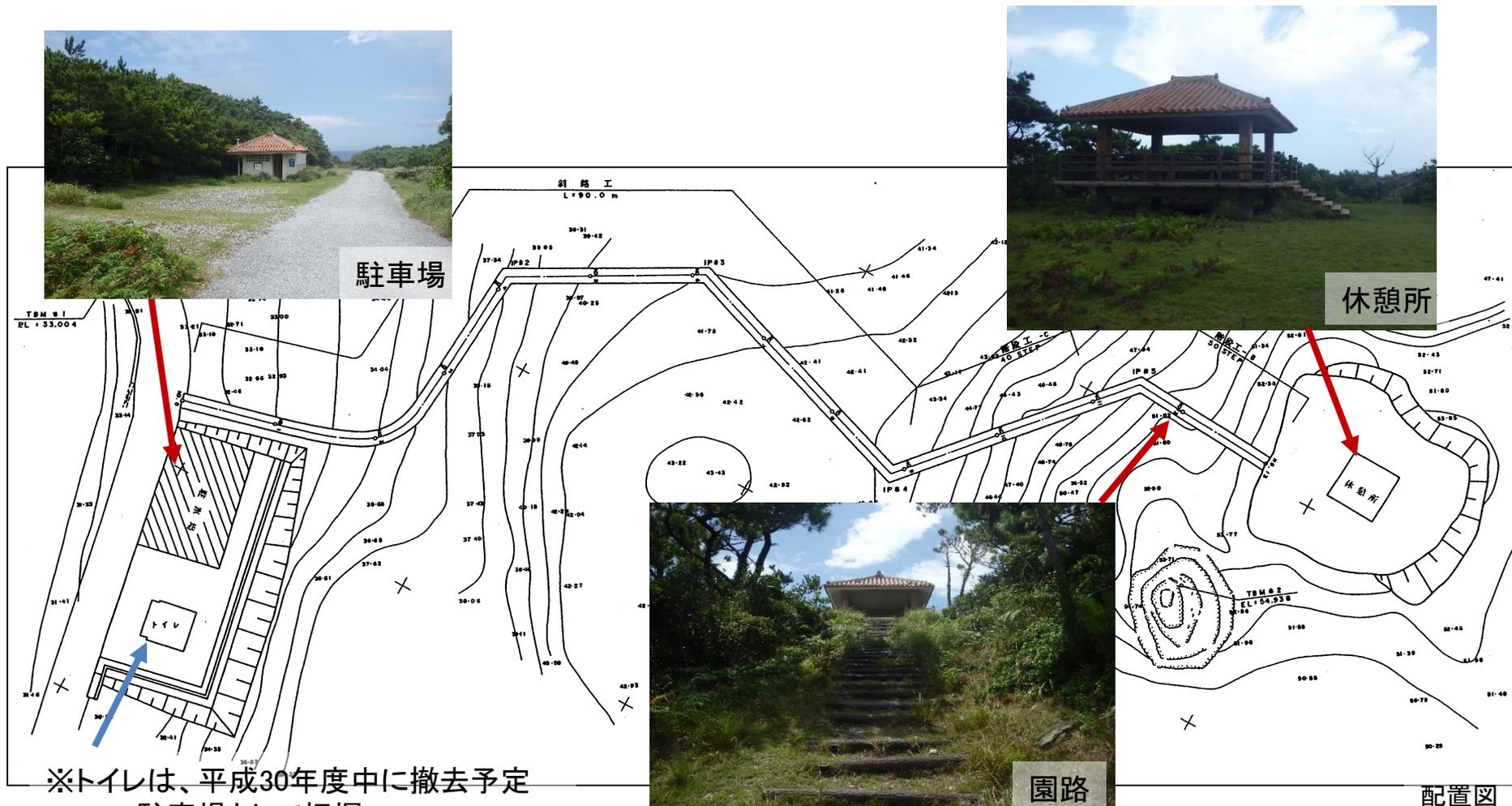


沖縄海岸国定公園時に整備された展望台（休憩所）、園路、駐車場を含めて事業区域を設定する。

既存施設の把握（休憩所、駐車場等）

執行予定者：沖縄県

- 沖縄海岸国定公園事業として、公園を安全かつ快適に利用するために必要な休憩所、公衆便所、歩道等が整備されている。（沖縄県）



※トイレは、平成30年度中に撤去予定
→ 駐車場として把握

配置図

標識の再整備

執行予定者：沖縄県

- 必要な情報発信を行うため、多言語に対応した標識の整備を行う。（沖縄県）



【完成イメージ】

自然環境への影響

○新たに整備される標識は、すでに整備された土地に設置される予定であることから、新たな土地の改変や支障木の伐採は伴わず自然環境への影響は最小限である。

国立公園満喫プロジェクトについて

- 慶良間諸島国立公園ステップアッププログラム2020に以下のとおり位置づけられている。
 - ・ビューポイントを中心にWi-fi環境、ユニバーサルデザイン化したトイレ、ITやAR（拡張現実）を用いた多言語に対応した解説板や標識の整備を行う。（環境省、沖縄県、渡嘉敷村、座間味村）